

も出来なかつたので、彼女はついにダンスの喜びをも、すてゝしまはねばならなかつた。かうして、彼女は完全に孤立した生活を送るやうになつた。そして、良人に對してますます疑ひをかけるやうになつた。そこで、良人は彼女を狂氣であると思ふやうになり、しかもそのことを、人前で平氣で口にするやうになつた。

かうして、彼女はますますヒステリックになり、ますます疑ひ深くなつたので、その解決について、私のところへ相談が持ち込まれた。私は、ダンスのうまいジゴロこそ、確かに彼女のヒステリーを治す役に立つだらうと考へた。そこで、ダンス教師たちの中から、一人の美しい智的な青年を選び、その役割をすつかり授けて、彼女に會はせる機会をつくつた。私は彼女に向つて、この町のある美しい青年が、ダンスが大變すきで、是非ともあなたと踊つてみたいと思つてゐるのだが、まだ一度もお相手をしたことがないから、私に紹介の勞をとつてもらひたいといつて來てゐる、といふ風に話した。彼女の良人は、喜んで私の説に賛成し、そのジゴロのために給料を拂つた。そして彼の妻は、その青年がお傭ひの「お相手」で

あることを知らなかつた。

一ヶ月ほどするうちに、彼女の氣持は、この新しく見つけた交友のお蔭で、すつかり朗らかになり、今まで斷然拒絶してゐた讀唇法（相手の唇の動きを見て言葉を判斷する法）を、勉強して見たいといひ出すやうになつた。それからまた、今まで完全に絶縁してゐた社交界へ自發的に入つて、多くの人々と交際したり、いろ／＼なことに顔を出したりしたいといふ慾望を、次第に起して來るやうになつた。今日では、彼女の耳は、私をはじめで會つた時よりも遙かに悪くなつてゐるのだが、それにも拘らず、彼女の人は前はすつかり變つて、見違へるほど朗らかになつた。彼女のこの精神的復興は、興味と好意をもつて私の指圖に従つてくれた、若いダンス教師のお蔭である。

この他に、ジゴロの協力を得て患者を治療した経験を、私は少からず持つてゐる。ある場合には、患者自身がジゴロに給料を支拂つたこともある。中年の、配偶者のない婦人に對して、人々が非常に慇懃な態度を示してくれる國々では、ジゴロの存在は必ずしも眉をひそめ



るべきものではない。世界中の女性が、ヨーロッパへ旅行したがる一つの理由は、恐らくこのジゴロの存在するがためであらう。ヨーロッパでは、女が男との交友に金を支拂ふことは、それが意識的になされる場合には、女にとつて決して不名誉なことではない。それは、男が女との交友に金を支拂ふことが、男にとつて不名誉でないのと同様である。

ジゴロを儲ふことは、確かに看護人を儲ふことよりも、遙かに優つてゐる。一定の期間だけ若い男を儲つて、楽しい環境の中で交友することは、確かに、療養院の中で看護人に見守られ、神経病の患者たちと一緒に暮らすことよりも、どのくらゐよいか知れない。

現代の社會では、大體において、良人は妻を幸福にすることよりも、金や地位をつくることにより多くの興味を持つてゐるのだから、若い男たちがその間へ足を踏み込んで、その夫婦間の間隙を充たさうとするのは、むしろ避け難いことである。けれども、私はあなた方に向つて、芝居やダンスや夜會などへ一緒につれて行く若い男に對しては、十分に注意して、客觀的な態度を棄てないやうにしないと、飽くまで忠告したい。行儀のよいジゴロは、た

とへ護衛にはならなくとも、一晚を楽しく過ごさせてくれる。家の中に獨りぼつちで坐つてゐて、華やかに楽しかつた昔のことを思ひ出してむせび泣いたり、良人が自分を顧みてくれないといつてくよくよするよりは、よい友達を儲ふ方がどれほどよいか知れない。けれどもその場合、相手の男をどこまでも商賣人として、客觀的に見ねばならない。決して深入りしないやうに、十分氣をつけなければならぬ。商賣人としての域を脱して、深入りしようとする隙をねらつてゐるやうなジゴロを儲ふことは、この上もない危険な投資である。かういふジゴロは、あなた方の虚榮心を利用して、ついつつかりしてゐるうちに、あなた方をいつの間にか自家藥籠中のものにしてしまふ。彼はあなた方に肉體を賣るであらうが、心からの戀愛をさしげるとは滅多にない。そして、戀愛のない性的關係は、むしろ劣等な動物的行動である。ジゴロに對しては、常に十分な警戒と注意を怠らぬやうにせねばならない。

萬遍なく行きとどいた生活をして來た女性は、既に趣味や、交友や、運動や、娛樂などが非常に豊富だから、今更ジゴロなどを儲ふ必要は殆どない。若しもさういふ生活をしたこと



がなく、晩の時間を過ごすために、どうしてもジゴロを備はねばならないやうな場合には、あなた方は、自分の年齢とあまりかけ離れてゐない男を備つた方がよい。それは、あなた自身及びあなたの良人に對する、せめてもの禮儀である。女性家長の時代には、年上の女性が年下の男性にかしづかれた。今日でさへ、良人を尻に敷く家長的な女性は、年下の男性からちやほやしてもらひたがる。けれども、ある程度の禮儀はどこまでも守つて行かないと、不快なゴシップや不幸な出來事が、身のまはりに降りかゝつて来る。

### 浮氣の結果はごうなるか

ジゴロと中年女性との間に、純粹なプラトニックなものを期待することは、むしろ無理な話である。元來が婦人の護衛として發生したジゴロが、今では完全に夜の友達になつてしまつてゐる。そして、自分の性生活に不満や不安を持つてゐる女性が、かうした男に向つて性的冒險を企てようとするのは、無理からぬ話である。けれども、このやうな性的遊戯は、彼

女の自尊心を臺なしにしてしまふ。しかも、新しい男が現はれる毎に、それは彼女にとつて新しい挑戦になる。あたかも「あの男を征服することが出来れば、それは、私がまだ年をとつてゐない證據だ」と、無意識の中に自分自身に向つていつてゐるやうなものだ。かういふ心理で、燃え盡きようとする性の抹消的な感覺を追ふあまり、今までにどんな大きな悲劇が起つたか知れない。しかもかういふ心理は、日一日と尖鋭化する。ジゴロからジゴロへと、次第に頻繁に渡り歩くやうになる。しかもそこには本當の愛情がないので、絶望的ないら立たしさに襲はれるばかりだ。そして、新しい冒險を繰り返せば繰り返すほど、この危険な道を辿る不幸な女性の心の中には、いよ／＼底の知れない絶望と危険が加はるばかりだ。

この種の性的勝利は、正しい見方からすれば、明らかに性的敗北であり、心理的敗北である。新しい勝利を得る毎に、自尊心はますます傷つけられる。眞の愛情といふものがますます遠のいて行く。そして残るものは、絶望といふ立たしさのみである。

どんな立派な女性でも、かういふ過程を辿りはじめると、たとへ幸にして、ゴシップや脅喝



や梅毒や絶望から逃れることが出来たとしても、結局は自分の性的敗北を認めねばならなくなる。その時こそ、最も危険な時期である。将来が光明のない暗闇に見える時期である。その時期は、殆ど例外なしに、精神的破滅、即ち憂鬱症に陥る時期である。けれども、性的遊戯そのものが憂鬱症の原因になると考へてはならない。精神的破滅の原因は、決して性行爲そのものではない。性的放逸や性的遊戯は、その背後に必ず心理的原因があるのであつて、その心理的原因は、性的放逸によつて決して救はれるものではなく、反對にますます強まるばかりである。そして憂鬱症の原因は、必ずこの強まつた心理的原因の結果なのである。

### 性は聖なり

私は今まで、この危険な時期の暗黒面ばかり描いて來たが、實際には、この危険を少しも経験しないで過してしまふ女性も、随分多いのである。かういふ女性は、仕事や家庭のことや娯樂などに忙しくて、そのために、この危険な薄氷の上を、何の事件も起さずに渡つてし

まふのである。多くの女性の中には、普通よりずつと晚くなつてから、性の必要に目ざめるものもある。そして、世間的な問題については少しも煩はされずに、性的關係の責任と喜びとを遂行してゐる。四十を過ぎてから結婚して、しかも完全な満足な愛の生活を送り、實際にはたとへ子供が生れなくても、母性の本能のはけ口を、別の方面に求めてゐる女性が少なくない。また多くの女性は、危険な中年期に入つてから本當の戀愛を経験し、性の不安から來る悩みや焦燥に煩はされないので、その後の生活を平和に保つて行くため、毎日多忙な仕事に従つてゐる。

この問題に對する適切な例として、四十になつてからはじめて戀愛を経験した、ある音楽の先生を紹介しよう。彼女の少女時代は大變不幸な、いたましいものであつた。それから三十年間といふもの、慘憺たる生活苦と闘ひつゝ、わき目もふらずに働きつゞけ、男のことを考へたり、戀愛したりする時間などはまるでなかつた。朝から晩まで働きつゞけ、あらゆる時間と努力とを傾けつくして、自分の家族を養つて行かねばならなかつた。次から次へと、



いろいろな障害や困難な問題が起つて来た。母親は長く病の床にあつたが、しまひには病院

へ入れねばならなくなつた。躰の妹は學校へもいけないので、自分で教育してやらねばなら

なかつた。年若い弟に身を立てさせるためには、その面倒も見てやらねばならなかつた。

四十になつて、彼女は漸くホツとした。今まで彼女を苦しめて来た問題が、すべてうまい  
工合に解決した。彼女は生れてはじめて自由に解放され、自分の思ふやうな生活がはじめら  
れるやうになつた。彼女は突然、今までの馬車馬のやうな生活が、自分の中の最も重大なも  
のを、盗み去らうとしてゐることに気がついた。

彼女は生れつき強情な、實利的な女性だつた。今、さうした自分の缺點に気がついてみる  
と、彼女は今まで人生の様々な障害を克服して来たと同じ努力と方法で、それを直して行か  
うと思ひ立つた。そして、今までの四十年間の獨立した生活のお蔭で、結婚といふことには  
あまり魅力を感じなかつたけれども、戀愛の快樂だけは是が非でも経験したいと思つた。そ  
れを経験しないでは、死んでも死に切れないと思つた。

そこで、ある晴れた日に、彼女は荷物をまとめて、最も優秀な教へ子の一人と一緒に、ロ  
マンチックな密月旅行に出かけた。二人は六ヶ月間イタリーに住み、奔放な、完全な、満ち  
足りた戀愛生活を楽しんだ。旅行と性的交友は二人を有頂天にし、歡喜の絶頂においた。そ  
してこの経験は、二人にとつてこの上もなく楽しい、忘れ難いものになつた。六ヶ月の戀愛  
生活が終ると、彼女は再び自分の仕事場へ歸り、相手の男もまた自分の仕事に戻つた。彼女  
は私に向つてかういつた、「あの戀愛はあれでおしまひですわ。でも私は完全な女であること  
がはじめてわかつて、こんな嬉しいことはありませんわ。これから、また休暇がほしくなる  
まで、一生懸命で仕事にはげむつもりです。」と。

彼女が密月旅行をしてから、もう五年の年月が過ぎ去つた。彼女はその後、心も肉體も共  
に健康である。かうして、彼女の性の問題は、彼女に關する限り永久に解決された。

現代の文明は、性の問題について、一種の過渡期に達してゐる。過去五、六千年に亘つて、  
長い間性の問題を支配してゐた嚴めしい禁制が、いろいろな理由から徐々に崩れはじめてゐ



る。

今日の女性は、あの嚴めしいグランディ女史が何といはふとも、自分たちの性的幸福の問題を、自分たち自身の手で處理しようとする傾向を持つてゐる。ことに、三十八の年まで文學の事に没頭して來た、ある女性の實例をあげよう。彼女は美しい女性ではなかつた。實際、彼女は世間からも醜い小鴨と考へられてゐたし、彼女自身もさう考へてゐた。そして長い間、彼女の容貌が醜いために、結婚を申し込んでくれる男などは一人もあるまいと思つて、自ら淋しく諦めてゐた。その代り、彼女は自分の著作の中に、ありつたけの愛と情とを注ぎ込んだ。その結果、彼女は人生の奥底まで理解し、人間の愛や情の眞諦に觸れた作家だ、といふ評判を得た。

三十八のとき、彼女は更に外國にもその名を知られるやうになり、あらゆる階級の、さまざまな人々と接觸するやうになつた。それらの人々のうちの一人に、彼女よりも少し年上の作家がゐて、愛人としてよりもむしろ崇拜者として、彼女のところへ通ひはじめた。彼は、

彼女の作品の優秀さに對して心の底から賞讃し、彼女の容貌や姿態の醜さなどは、全然眼につかなかつた。かうして、いつの間にか、彼は彼女が他人のやうに見えなくなり、間もなく熱烈な戀に陥つた。

ところが、いろいろな理由から、二人の結婚は絶対に不可能だつた。けれども、二人は家庭を持ち、同棲しはじめた。そして、互ひに愛し愛されて、その後いつまでも、はたの見る目も羨ましいやうな、幸福な生活をつゞけてゐる。二人は種々の興味を分け合つて楽しんだ。妻の方が良人よりも遙かに有名だつたので、經濟的な負擔は、大部分妻が背負つてゐたけれども、妻が威張るとか、良人を尻に敷くとかいふやうな問題は、二人の生活には微塵も見られなかつた。そして、かうした夫婦生活のために、二人の作品は前とは大分變つて來た。妻の精神の明朗さは、明かにその作品の上に現はれて、その作品を一層偉大なものにした。

けれども、彼女の場合はむしろ例外で、中年期に達したすべての女性が、彼女のやうな性格の強さや、精神の豊かさや、財政的な安全さを持つてゐるとはいへない。従つて、彼女の



歩んだ道と同じ道を歩むことは、多くの女性には望めないことだ。

私がこの實例を引用したのは、次の三つのことを述べたいためである。即ち、その一は、普通の幸福な性的關係は、女性の場合には相當年をとつてからでも味はへるものであり、また若い頃に自分を異端視したやうな環境の中にあつても、味はへるものであるといふこと、その二は、性的要求は表面は衣を被つてゐるけれども、それは我々の生活を構成する最も強い勢力の一つであるといふこと、その三は、愛し愛されたいといふ慾望は、精神も肉體も共に健康な女性の、當然持たねばならない權利である、といふことである。

ところで、かういふ環境にある女性は、性の問題をどうすればよからうか。彼女たちのためには、二つの道が開けてゐる。満足な性生活を経験したことなしに三十五になり、五十五になつた女性は、次のやうな道を辿るべきである。

先づ第一に、性と愛との挑戦を受け容れ、それを探し、それを發見し、それを樂しむことである。既婚婦人でも未婚婦人でも、中年期に達すると、この問題にいろいろな障害が起り易

い。けれども、その後の生活に何の危害も加へられずに、愛の生活が遂行して行けるならば、この道を選ぶのが、女性にとつて最善の方法である。

人生の有意義なものには、すべてある種の危険が内在してゐる。この種の危険は、職業や社交の領域におけると同じやうに、性の世界にも存在してゐる。それ故、私の考へでは、どんなに晩婚でも、結婚しないよりは遙かによい。また、満ち足りた戀愛は、結婚と同じやうに、心身の健康のために非常によい。けれども、この道を辿るためには、勇氣と、協力と、ユーモアと、精神の彈力と、適當な經濟的安定が必要である。こゝに注意しなければならぬのは、この道を辿らうとする女性は、非常にしつかりした個性と情操をもつて武装せねばならないことである。

性的に満足を得られない女性の、性の問題に對する第二の解決方法は、満足を得ようといふ考へをすつかり諦めてしまつて、性のない生活と和解してしまふことである。これが最も危険の少ない道である。しかも早晚、あらゆる女性が、この性のない生活に入らねばならない



のだ。

### 愛すべきか愛されるべきか

女性の中には、その肉體や教養の如何によつて、高度の性感覺を持たない人々が少くない。かういふ女性は、結婚後の性生活に非常な期待をかけて結婚するが、意外にも性生活に十分な満足が得られないことを知つて、少からず絶望する。そしてその原因を、肉體や、經濟や、環境などの缺陷に歸してしまふ。かうして、彼女は性生活に何の喜びも、何の期待も持たなくなり、その結果、性生活に終りを告げなければならない老年期が近づいても、別に何の苦悶も感じない。慎しみ深く締めてしまつて、何の不足も感じないで、容易に自己満足の境に入つてしまふ。

ところが、愛や性に多くのものを期待してゐて、しかも得るところの少かつた女性は、かういふ解決方法を喜ばないに違ひない。けれども、いろ／＼な條件のために、他の方法を選ば

ないで、むしろこの方法を選んでしまふのである。

女性は、性なくして生活することが出来るだらうか、また幸福であることが出来るだらうか？ この問題に對して、ある女性はイエスと答へるかも知れないが、大部分の女性は、決定的な答へを保留するに違ひない。良人と美しい、しかし性的には不十分な關係を保つて生活して來た女性は、立派な良人と友情の方が、單なる性的満足以上に尊いものだと思ふであらう。そして良人と友愛的な協力の生活に満足して、知らず／＼のうちに性に對する關心が消え失せてしまつても、少しも後悔などはしない。

現代の文明世界においては、最も優秀な男性でさへも、性的にはしば／＼不完全な場合がある。そして多くの女性は、種馬のやうな男と過度の肉體的満足を經驗するよりは、むしろ智的にも情操的にも第一流の良人と共に、性的でない生活をする方を選ぶものである。けれども、健康な女性にとつては、これは必ずしも幸福な道ではない。

性的若しくは精神的な不幸の大部分は、智的な男性や藝術的な男性が、自分自身は性的に



は比較的不完全であるにも拘らず、心理的にはその正反對のものに興味を引かれ、健康な、完全な女性を求めるといふところに起因する場合が多い。かういふ人々は、私生活においてファウストの悲劇を主演してゐるやうなものだ。彼等は自分の性的な強さによつてではなく、その人格的な熱情によつて、年の若い、性的に魅力のある、健康な女性に求愛する。しかしその結果は、必ずしも幸福ではない。

かういふ男性のうちのあるものは、可愛い妻の不貞に刺戟されて、偉大な仕事をする必要がある。さういふ實例は、歴史上にも非常に多い。けれども、かういふ場合を女性の側から見た人は一人もゐない。天才とか天才に近い男性といふものは、妻と共に幸福な生活を送ることは困難だ。けれども、たとへ天才が性的には無能力であつても、その妻になることには別の大きな利益が伴ふ。そしてその利益は、多くの女性たちにとっては、完全な性的満足から来る心理的な利益よりも、遙かに大きなものだと思はれてゐる。

また第一流の女性、即ち自分の手腕で地位や名譽を獲得した女性は、美しい容貌と十分な

性的魅力以外には、何一つとして優れたものを持つてゐない青年と、しばしば結婚する。私の見聞した範囲でも、かういふ結婚は随分多い。ところが、かういふ結婚は、殆ど例外なしに不幸な結果に終つてゐる。第一流の女性は、大抵は名譽や地位を得るために、人生の大部分を過して来たのだ。そして中年になつてから、他の普通の女性と同じやうに、性的歡喜を求め。けれども彼女の場合には、幸福な歡喜は決して味はへない。といふのは、彼女は名譽を勝ち得たゞけあつて、何かにつけて支配慾が強く、いはゞ半ば男の世界に住んでゐるやうなものだからである。そして彼女の無智な若い良人もまた、傳統的な男性としての態度と特權とを振りまはすことによつて、彼自身の劣等性を補はふとするため、そこに支配慾と支配慾との衝突が起つて、その結果妻を怒らせ、失望させる。かうしてこの夫婦は、遂に本當に幸福な生活を樂しむことが出来ない。

かういふ結婚の不幸な實例として、五十五歳になつてはじめて結婚した、國際的に有名なある女流實業家を紹介しよう。彼女は年に四回くらゐづ、商用で海外へ旅行しなければなら



らなかつた。あるとき、丁度旅行中に、彼女は自分の年の半分くらゐにしかならない、若い快活な冒険家に出會つた。その冒険家といふのは、青年期に入つてから、たつた四年の間に全財産を使ひ果たしてしまつた放蕩兒だつたが、その放蕩のお蔭で、非常に鷹きのかゝつた社交家になつてゐた。彼は忽ち勤勉な幫間の役割を演じて、この金持ちの婦人にへつらひはじめた。二三度會ふうちに、彼は新しい友であるこのお婆さんに、自分の澤山の亂暴な經驗を誇張混りに話した。その結果は、彼女の虚榮心に大きな印象を與へたばかりでなく、その同情をも得ることが出来た。

かうして、二人は遂に結婚した。彼女がこんなに年若い青年と結婚したのは、單に性の満足を目的としたのではなく、むしろ彼女の空しい母性本能を満たすためであつたに違ひない。ところが、相手の青年にとつては、この結婚は願つてもない幸福なものだつた。彼がどんなに努力しても得ることの出来ない財産を、彼の妻が一舉にして與へてくれた。

彼女の不幸の第一歩は、この青二才と結婚した直後に、早くも現はれて來た。二人の結婚

のニュースは、新聞の三面記事を賑はした。その記事には次のやうな辛辣な説明が加へてあつた。曰く、今まで男性との性的關係を一切犠牲にして、ひたすら金儲けのみに没頭して來た貪慾な婦人が、子供のやうな若い冒険家の甘い口車に乗つて、意のままに動かされ、將にその財産を狙はれようとしてゐる、と。これは確かに第一の不幸で、彼女の信用は少からず傷つけられた。更に第二の不幸は、この若い良人を自分の仕事の中へ引き入れたことであつた。彼は夜會や酒場では優秀なエキスパートだつたが、事業の方面では全くの鈍物だつた。彼らたちまち失敗ばかり繰り返し、しかも非常に横暴に振舞つて、事業を危地に陥れてしまつた。妻は良人の横暴を壓へることが出来ず、事業の上で大穴をあけられてしまつた。そこで彼女は自分の體面を保ち、それ以上の損害を被らないやうに、漸くのことゝ良人を説得して、別の仕事に就かせることにした。ところが、良人は間もなく、妻の用心深い監視の目をのがれて、殆ど毎日のやうに酒場から酒場へと渡り歩き、銀行の預金帳はすつかり空にして、つまらぬ賣笑婦にうつゝいを抜かしはじめた。妻が事務所です事をしていると、警察からまたして



も電話がかゝつて来て、良人の身柄を引き取るために呼び出され、揚句の果てに、酔拂つた良人を病院にかつぎ込んで、酔をさませなければならぬといふ、實に慘澹たる始末だつた。そんなこんなで、彼女はますます心配性になつたが、彼女が心配性になればなるほど、良人の行動はいよゝ無軌道になるばかりだつた。そして、良人が無軌道になればなるほど、妻はますますその責任を感じるのだつた。かうして、彼女の事業が苦境に陥つたことはいふまでもない。彼女は日一日と目に見えて老衰して行き、遂に病院へ入つて、過度に緊張した神経を治療してもらはなければならなくなつた。

彼女は遂に財産の大部分を失つてしまひ、事業の方も失敗して、良人に對する期待も完全に失つてしまつたので、この若い良人を思ひ切つて離婚してしまつた。そしていくらかの財産を興へて、再び彼女の前に現れて邪魔立てしないやうに、綺麗さつぱりと手を切つてしまつた。そして事業の再興を計り、苦しいながらも地道に努力しはじめた。

ところが、彼女の前夫たるこの若い男は、一ヶ月するかしないうちに、再び彼女の前に現

はれて、丁寧なお世辭をふりまきはじめた。

この事件は、名聲や勢力ばかりを追求して、普通の性的接觸を排斥し、一方的な生活を送ることの間違ひを指摘してゐるばかりでなく、實業にたづさはる女性が、結婚に際して、自分自身の動機や相手の男性の動機を理解することなしに、自分の本能を満足させようとすることの間違ひを、極めて雄辯に物語つてゐる。

自分一人の努力で名を成した第一流の女性は、殆ど成功する見込みのない結婚生活を選ぶよりは、むしろ獨身生活をつづけた方がよい。若しも結婚の幸福を味はひたいならば、自身と同じ程度に有名な男性と結婚して、自分の支配慾をあまり振りまはさないやうにすることだ。でなければ、何處か氣に入つた土地に別荘でも買ひ込んで、世間のうるさい鶴の目鷹の目から遠ざかつて、若い愛人と共に悠々自適した方がよい。或ひは、性のない生活に身をさしつけて、平和と幸福の精神的な生活に入ることだ。

とはいふものゝ、時には勿論例外もある。けれども、有名になつてから若い男に求婚する



女性は、大抵の場合、いはゞ威信と名譽といふお金で愛を買つてゐるやうなものだ。それ故、この取引において買手となる女性は、十分に氣をつけて然るべきである。

イギリスの勢力が入る前の印度には、良人が死ぬと、その死骸を火葬にする際に、その未亡人を一緒に焼き殺してしまふ習慣があつた。それは、良人のゐない女は無價値で、一塊の土に等しいからといふのである。敬虔なヒンヅー教徒は、未亡人とは絶対に結婚しないことになつてゐるから、若い未亡人を、生ける屍として生かしておくより、いつそ殺してしまつた方が却つて慈悲だ、といふのがこの習慣の生れた原因である。この奴隸的な家長專制の儀式は、幸にも西洋文明の進出と共に消滅してしまひ、寡婦殉死は今日では法律で禁止されてゐる。ところが、西洋においてさへも、寡婦になると自己刑罰を行つて、心理的に寡婦殉死を行ふ女性が、今日でも澤山ゐる。かういふ女性は、自分の精神病的な行爲を美德だと考へてゐるが、さうした誤つた考へを棄て、出来る限り早く再婚した方がよい。

勿論、結婚生活が非常に完全で、非常に美しかつたため、良人の死後もその關係が精神的に持續されるといふやうな場合もあり得る。私は神経病的な女性の、いやに涙もろい感情について論じようとは思はない。かういふ女性は、寡婦になつたために、世間の同情や賞讃を得ようと、自ら殉教者らしく装ふのである。私はもつと冷靜な、聰明な女性の場合について論じたい。良人の生存中、非常に幸福な生活を送つた女性は、時によると、結婚生活中に楽しい性生活があつたに拘らず、一切を諦めてしまつて、平氣で性のない生活に入つて行けることがある。かういふ諦めが、人爲的ではなく、自然に起つて來る場合には、女性は亡夫との愛の記憶だけで生きて行つて、しかも幸福であることが出来る。けれども、そこに達するためには、偉大なる愛と偉大なる人格が必要である。

## 愛の代用物

適當な性の満足を得ることの出来ない女性には、その慾望を純化して、その代りになるものを見つけ出し、それによつて悩みを解決するといふ方法がある。つまり自分の慾望を變形



させて、良人とか愛人とか以外のものに集中することだ。勿論、慾望そのものを變形するとは出来ないが、若し他の方面で非常に活動的になるなら、愛や性に對する慾望は、次第に減退して行くものだ。

どんな女性にでも、愛したい慾望と愛されたい慾望とは、必ずあるものである。性に對する慾望は食慾と同じやうなもので、女性の生命において最も原始的な、最も基本的な本能である。空腹は食べ物をとれば治る。同じやうに、性は愛によつて満たされる。けれども、ピフテキの得られない時には、草の根や果物を食べるのと同じやうに、女性は、性の満足の間得られない時には、それに代るべきものを見つけて出して満足する。

別の言葉でいふと、性の満足を得られない女性は、自分の慾望と性のない老境との間に、別の代用物を持つて來て橋をかけることが出来る。完全な飲食物には、蛋白質と、含水炭素と、脂肪と、水と、鹽と、ビタミンとが含まれてゐる。完全な愛の生活には、性の本能とその對象物がなくてはならない。けれども、パンと水の食事だけでも生きて行けるやうに、

必要に應じては、ある種の最小限度の解決法で、あなた方の慾望を満たすことが出来る。

女性の本能の最初の、そして最後の、そして最善の表現は、男性に對する愛でなければならぬ。けれども、この本能は決して單純な形で存在するものではない。その中には自己満足的な要素や、同性愛的な要素や、母性的な要素や、創造的な要素などが含まれてゐる。しかもこの愛の本能は、一定の進化の道を進むものである。先づ自己満足の愛からはじまつて、同性愛的な時期と英雄崇拜の時期を経過し、それから成熟した性愛の時期に至り、最後に藝術的創造ともいふべき、他利的な博愛的な、崇高な、愛の局面に達して終る。

けれども、愛の本能は、必ずしもこの進化の過程を進んで、完全に發達するとはかりは考へられない。時にはいろいろの例外がある。あなた方は、幼稚な自己満足的な愛のみを持つて墓場へ行く女性や、女學生らしい同性愛的な傾向のみを持つて一生を終る女性や、母性愛しか持つてゐないやうな女性を知つてゐるに違ひない。また、文學や音楽や芝居などを、子供を産んで育てることと同じやうに考へてゐる女性も澤山あるし、自分の愛のすべてを全人



類にふりまいてゐる、所謂博愛の女も少くない。

## 愛の崇高化の必要

愛の本能が完全に発達しない場合には、性格の中に幾多の缺點が残る。それは、生理的に十分発達しなければ、肉體に缺點が残ると同じである。また、前に述べた愛の幾多の進化の過程のうち、その一つに失敗しても、精神上に大きな傷痕を残す。けれども、たとへ愛に失敗しても、低級な愛の代りに高級な愛を置きかへる方法や、ある時期の愛の失敗を補ふために、他の時期の愛を発達させる方法を知つてゐる女性は、幸福な生涯を送ることが出来る。たとへば、残酷な両親に嘲弄されたり、辱かじめられたりして、自己満足的な幼年期の愛を破壊された女性は、他利的な、博愛的な愛の中に幸福を見出すことが出来る。また、環境とか性的器管の缺陷によつて、母性本能を妨げられてゐる女性は、藝術の世界に創造的な活動をして、楽しい生活を送ることが出来る。更に、愛の生活を根本的に挫かれてしまつた女性

は、仕事や、スポーツや、教育や、藝術などのやうな、個人的色彩の少い活動に没頭することによつて、その愛の本能を崇高化することが出来る。

一生涯のうちに、愛の本能のあらゆる要素を完全に進化させ、完全に表現することの出来る女性は、まづ一萬人に一人くらゐなものであらう。どんな女性でも、ある程度までは必ず失敗する運命を持つてゐる。それ故、どんな女性の生活にも、何等かの代用物と「崇高」なものがある。性のない生活に調和して行く女性は、自分の諦めを成功させるために、崇高化の道を辿らねばならない。何等の崇高化もない諦めの生活は、大抵の場合、意氣銷沈と憂鬱に墮してしまふものだ。

私たちは、愛の完全にノーマルな状態を容易は與へてくれないやうな、窮屈な世の中に住んでゐる。それ故、ある程度の愛の崇高化は、あらゆる女性に必要である。ノーマルな性愛や母性愛が與へられない場合に、自分の愛をうまく崇高化することの出来る女性は、確かに幸福である。結婚しない女性や、性生活をしない女性には、ある程度の愛の崇高化が絶対的



に必要である。賢明な母は、子供達が生長してそれ／＼獨立の生活をはじめ、自分の許から去つて行く日に備へるために、愛を崇高化する方法を學びはじめ。また賢明な妻は、不幸にして寡婦になつたり、良人が性的に無能力になつたりするやうな場合を豫想して、早くから愛を崇高化するやうにつとめる。

複雑な要素を持った愛の本能を、全體的に拒否したり、抑壓したりすることは出来ない。若し強ひて拒否したり、抑壓したりすると、それは必然的に精神病といふ形をとつて現れる。こゝに崇高化の意義があるのだ。

### 怖るべき同性愛

性の問題を論ずる場合には、同性愛を無視してはならない。同性愛は、世間で普通に考へられてゐるよりは遙かに多い。それは、青春期における愛の抑壓に原因して起るもので、時には女優や音楽家を崇拜したり、また學校の先生などを崇拜するといふやうな形をとつて現

れる。

男性といふものを法外に尊敬する社會では、多くの女性が自分たちを生れつき劣等なものだと思ひ込んで、女であることを非常に嫌惡するといふやうなことが、しばしば起る。男性家長專制の道徳は、男性の社會的及び經濟的優越性から起つたものである。けれども、愛には社會もなく、經濟もない。愛はたゞ愛を知り、愛を表現することに盡きる。

女性の愛の本能が、心理的若しくは社會的に妨げられる場合には、彼女は同性に心を惹かれるやうになる。男性に征服され、嘲弄され、輕蔑される氣の毒な女性は、男性から離れて、同性の間に愛の對象を求めやうとする。男性に征服され、嘲弄され、輕蔑されながら男性を愛することは、女性にとつてはあまりに重荷である。だから、レスボン島の女詩人サッポのやうに、彼女は同性に愛をさしげはじめ。

かういふ女性のうちのあるものは、横暴な男性たちの眞似をしたいと思つて、同性愛において男性の役割を演じようとする。また、男性に對する恐怖心でその心理を支配されてゐる



女性は、本當の男性の危険な愛よりも、かういふ男性的な女の愛の方を選ぶものだ。世界の多くの人は、同性愛を先天的なもの、遺傳的なものと思像してゐるけれども、それは明らかに間違つた考へ方である。同性愛は後天的な一種の神経病であつて、その原因は漠然たる先天的素質の中に根を下してゐるのではなく、幼女時代からの經濟的、社會的、心理的な要素の中に根ざしてゐるのである。

若い女性の同性愛の傾向は、性的要求の發展過程の一段階である。成熟した女性の同性愛は、性的神経病の一種であつて、結婚と母性の責任を回避することを意味する。そしてその何れの場合も、容易に治療することが出来る。ところが、時によると、妻となり、母となり、圓滿な夫婦生活をしてゐる女性にも、この同性愛の傾向が現れることがある。それはどういふ風に現れるであらうか。

ある女性は、自分自身の中に同性愛的な傾向のあるのを發見し、それを無理に抑制しようとするが、結局抑制し去ることが出来ない。そして、社會的に非難されてはいけないと思つて、自分の感情を相手の女性に公然と打ち明けることをはゞかる。かういふわけで、同性愛の傾向はすつかり衣をきせられてゐるので、自分ではそれを感じながらも、強く意識しないといふやうな場合がある。では、かういふ女性が十分な、満足な、成熟した性生活の後に、同性愛に陥るのは、一體どういふわけであらうか。

若い女性を口説き落とし、單に自分自身の本能を満足させ、自分の力を表現するために、成熟した女性が、若い女性を同性愛といふ不幸な道へ引つぱり込むことは、およそ不届き極まることである。かういふ女性は、社會から無慈悲に扱はれる貧しい淫賣婦や、私生兒を産んだ若い女性よりも、遙かに罪深いものである。かういふ同性愛は、若い女性の肉體を掠奪するばかりでなく、その心をも掠奪するものだ。けれども、妻であり母であるところの、同じやうな二人の成熟した女性同士の同性愛は、ある場合には、愛の崇高化の一方法として、認めなければならぬ。

自分の良人がたとへ我慢の出来ない野蠻人であつても、不適當な愛人であつても、性的無



能力者であつても、暴君的なエゴイストであつても、哀れつばい神経病者であつても、妻が姦通を犯せば必ず追ひ出されるといふやうな社會では、子供たちや自分自身の自尊心のために、夫婦關係をそつくりそのままにしておいて、同じやうに不幸な女性と同性愛的關係を結び、それによつて本能を満足させようとする中年の女性に對しては、幾多の同情を感じないわけにはいかない。私は、普通の夫婦關係よりももつと高尚な、もつと禮儀正しい同性愛を、今までにいくらかも見たことがある。

私は精神病學者として、かうした中年の女同士の同性愛を、ある程度までは認めるけれども、しかし若い女性同士の同性愛や、中年の女性と若い女性との同性愛は、絶対に認めることが出来ない。かういふ同性愛は、性的本能を歪め、墮落させ、害してしまつて、後になつて異性との普通の性關係へ入ることを妨げるからである。

## 職業婦人と夫婦生活



## 男性と女性の區別

最も原始的な生活組織の時代には「性」の區別はなかつた。即ち單細胞のアミーバは、自身自身の身體を二つに分割することによつて、生殖して行つたのである。アミーバには「性」の區別がなかつたから、従つて性の問題は伴はない。けれども、生活組織が複雑になつて來るに従ひ、次第に兩性に分れるやうになつてくる。ミミズなどは半雄半雌であるが、それよりも進化した生物の世界に入ると、兩性が完全に分れて來る。そして人類においては、この區別が最もはつきりした形をとつて現れる。性の機能がそれ／＼の特徴を發揮して來ると、全身の構造もまた異つて來て、男性と女性の勞働の分化といふことが確然として來る。

大自然が男性と女性とを區別して作つたのは、決して一方の性をして他の性を支配させるためではなく、兩性が相互に協調し愛撫し合ふに便利だからである。あなた方は本書を讀むに當つて、この大原則をしつかりと心に留めて置いて戴きたい。何故なら、男女間の生物學



的機能を理解することなしには、両性の心理を正確に理解することは出来ないからである。

## 原始社会と女性

原始社会では、農耕が食料供給の最大の資源であつた。私有財産などのない時代だから、原始人は一部落協同して耕作し、その收穫もまた共有のものとした。かういふ原始社会の支配権は、實に女性の手によつて握られてゐた。部落に大きな事件が起れば、その決裁権は最年長の老母の掌中にあつたのだ。この事實は、いはゞ女性を神祕化し、崇拜する觀念から來てゐる。

原始的な男性たちにとつては、女性が赤ん坊を産むことそれ自身が、既に不可思議な神祕であつた。彼等の生存を決定するものは、土の齋らす穀物や野菜が、豊かであるかどうかといふことである。豊かに食糧を得るためには、新しい人間を次々と産み出していかねばならぬ。彼等は、出産と豊かな收穫といふ、魔術的な神祕的な現象の中で、自分自身がどのやう

な役割を演じてゐるかを知らなかつた。そして子供を産むことの出来る女性は、子供を産むことの出来る男性よりも、遙かに魔術的であり、神祕的であり、謂はゞ大きな崇拜の對照であつたのだ。

かういふ社会では、労働も裁判も正義も名譽も、一樣に女性の掌中にあつた。産れた子供たちは、母の名に因んで名付けられた。男性は惨めな存在で、一種の厄介物としか考へられなかつた。……怠け者で、おしやべりで、悪戯好きで、まことに無用の長物であつた。

この社会では、結婚も亦女性の思ふがまゝであつた。彼女は結婚したい時には、自分よりも年下の男性を選んだ。そして選ばれた男は、持参金を持つて行かねばならず、彼女の母親、つまりお姑さんには絶対服従を誓はねばならなかつた。

われわれはこのやうな社会、即ち女性の支配下にある社会を、女性家長制の社会といふ。そしてこの女性家長制の社会の最も發達した形態は、古代文明の中に見られるが、今日でも、農耕を食料供給の主要資源としてゐる未開地方には、今なほその形が残つてゐる。



## 女性専制から男性専制へ

女性家長制の社會では、男性は殆ど公權を與へられてゐなかつたので、彼等は狩獵と戦争といふ二つの消暇法によつて、退屈な時間を潰すより仕方がなかつた。後に述べるつもりだが、この事實が、後代の人類文明に大きな影響を與へてゐる。

さて、男性は原野や山林を跋渉して獸類を狩り、それを生捕りにして持ち歸り、家畜として飼育しはじめた。われ／＼が「野蠻」と呼んでゐる文化の段階が次第に發達するにつれて、男子は羊や、山羊や、駱駝や、牛や、豚や、馬や、その他の動物の群を集めはじめた。これ等の家畜は、この社會の食糧供給の主要資源となり、人々は農耕による食糧供給よりも、この方が一層安易だと思ふやうになつた。

家畜の主食料は草である。だから、今までの草地が喰ひ盡されると、全部落は草を求める家畜の後を追つて、新しい草地を求めて放浪して行かねばならなかつた。

この結果は、従來の農耕法に大きな變化を齎らした。一ヶ所に定住して毎年同じ畑を耕して生活してゆくことが出来なくなつた。だから、従來行はれて來た農業の多くは、皆一時的な季節的なものとなつて來た。變化はそればかりではない。男性の頭からは、今迄の豐饒の女神を崇拜する觀念が、次第に薄れて行つた。彼等は自分たちが新しい、より上等な食糧供給の主人公であるといふことを、自覺しはじめたからである。

鐵と青銅の發見は、男性の好戰的活動をますます擴大するに役立つた。當時の戦争は、放牧地を爭奪するための戦争であつた。……荒々しい「個人主義の戦争」であつた。戦利品は敵の家畜の群であり、最も剛勇な勇士が、征服した家畜の最大の分前にあづかつた。かうして、男性が食糧供給の主人公になつたので、彼等は女性による支配を拒みはじめた。女性にとつて代つて、男性自身の手で支配したいと思ふやうになつた。

かうした推移の中に、私たちは後年の個人主義の萌芽を認める。人類の道德、習慣の歴史の上に最大の革命が齎らされたのである。男性の神祕と崇拜の對照であつた土と女性は、容赦



なく放棄されて、私有財産の崇拜がはじまつた。社會共有の耕地は、個人的に獲得した家畜や牧草地へと變化して行つた。牧草地の周圍に垣が繞らされた時は、即ち女性の没落の時であつた。女性家長制が終つて男性家長制の時代が初まつた。父が母に代り、良人が妻に代つて支配するやうになつた。今まで、女性が持つてゐた権力や、名譽や、特權を、男性は我が物顔に僭取してしまつた。

女性家長制の没落と、男性家長制の興起は、最も興味あり、また最も驚異とするに足る、人類歴史上最大の革命であるといへよう。

古代の猶太人は、豊饒と愛の女神であるイシヌタールやアスタルテやアイシスなどを崇拜するのを止めて、男性の神エホバ、即ち血と肉の犠牲を要求する代表的な「戰神」を崇拜するやうに變つて行つた。今日のわれわれの道徳や習慣や社會的習慣などは、古代のヘブリー人の獵師や羊飼の遺傳である。そして、彼等の羊や牛を家畜にする能力が、われわれに新しい宗教、新しい社會的秩序を與へてくれたのだ。

## 男性の横暴

女性の黄昏時代がやつて來た。……

新しく支配的地位に立つた男性によつて、私有財産の設定と共に、今まで見られなかつた全く新しい文明の組織が組立てられた。女性から一切の權力を奪つた男性は、自らの地位を安全にするために、法律を作つて、實際上女性を奴隸化してしまつた。彼等はつゞいて、女性を第二流の人類と考へるやうになつた。

男は年下の女性と結婚するやうになつた。そればかりでなく、持參金を持つて嫁いでくることを要求した。妻が懐胎すると、産れる赤ん坊が男であれかしと祈つた。そして不幸にして女の子が産れると、落膽と憤激の末、或ひは殺し、或ひは奴隸とし、或ひは妾として賣つてしまつた。女性は慘めにも「品物」になり下つたのである。今までは女性の容貌のことなど問題にされなかつたが、男性の支配が始まると、醜い女性は殺つふしとして扱はれ、美し



い女性に澤山の家畜と交換され、男性の主要な財産となつた。

性道徳の上にも大きな變化が來た。女性家長制の社會にあつては、女性の貞節とか處女性などいふことは、誰一人口にするものさへなかつた。子供たちは自分の母を知つてゐるが、父が誰であるか氣にもかけなかつた。ところが、それらがすつかり變つてしまつた。結婚の條件には、眞先に花嫁の處女性が問題にされるやうになつた。肉體的の處女性といふことが、交換價値の要點となつた。彼女が結婚する前に、他の男を全然知らなかつたといふ事實を、はつきりさせねばならなくなつた。安全に結婚するまでは、大切な家實の器なぞと同様に、幼少の頃から監視されるやうになつた。

一度結婚すると、彼女たちの唯一の職能は、貞節な妻となり、善良な母となり、柔順な奴隸となることだつた。男性が作つた性的法典にちよつとでも違反すると、忽ち大變な刑罰を與へられた。彼女たちが、その奴隸の境遇から解放されようと企てると、忽ち嚴酷に抑へつけられてしまつた。かうして七千年もの永い間、女性は束縛され、蹂躪されて暮して來た。

男性は自分たちのほしいまゝな行爲を合理化し、法律化し、道徳化し、自分たちだけが優秀であると主張して來たのである。

文明が進むにつれて、技術や學問などの知識が發達して來た。そしてそれ等に對する機會は男性にだけ與へられ、女性に許されたものは僅かに料理の技術と、媚態のテクニクだけであつた。踊りとか芝居などで、見物の男性を喜ばせたり、煩瑣な家事の中で召使のするやうな仕事に自ら没頭することによつて、僅かに個性を示すだけであつた。文明の進歩は、經濟的の機會を益々多く男性にのみ與へ、女性は一切の新しい分野から、徹底的にのけものにされることになつた。

男性が女性に示した虐待の歴史は、人類史上で最も陰慘なもの一つである。永い永い幾世紀の間、教會と國家は協力して女性の奴隸化に努めて來た。女性がその人格陶冶の道を拒まれた結果、實際に男性より劣等なものになつたのも、また當然の結果である。あなた方は、奴隸の境遇から敢然と立ち上らうとした進歩的な女性が、忽ちにして迫害と抑壓の鞭の



下に虚けられた事實を、思ひ起して見られるとよい。幾百萬の女性が、男性の經濟的支配の下にその生涯を犠牲にして來た。また、幾百萬の女性が、男性の虚榮と色慾の犠牲に供されて來た。

## 女性 の 解放

女性は、幾千年にも亘つて、奴隸的境遇を過して來たので、自らの性が、男性より餘程劣等なものだと信するやうになり、屈辱を美德だと考へるやうになつて來た。これこそ、永い間男性が女性に向つて「押賣り」して來た思想である。

女性は、胎んで産むといふ外に、その子供を養育してゆかなければならない。いや、そればかりでなく、暗い臺所で一日中せせと「汚ない仕事」もしなければならぬ。良人の機嫌もとらねばならない。人間の魂といふものは、そのやうな環境の下では、決して發達するものではなく、花開くものではない。

彼女たちが自らの宿命を呪ひ悔ひ、小汚ない臺所道具を憎んだからとて、どこに不思議があらう。眼につかぬやうにサボツたり、小さい抗議をしたり、意地悪やお喋りや陰口をきいたからとて、どこに不思議があらう。また、彼女たちの中の誰かが、淫賣婦や妾の群にとび込んで、家庭的桎梏から脱れようとしたり、男性への逆襲として、良人以外の男と密通したからとて、何の不思議があらう。さうしたもろくの背徳は、一種の奴隸的道德でさへある。男性自身によつて種を蒔かれた苗床に生えた、背徳の發芽なのである。

男性家長制の道徳は、十九世紀のはじめまでに、殆ど確立された。けれども、その頃になると、極めて興味のある一つの現象が起つて來た。

ジェームス・ワット少年が、ストーヴにかゝつて湯氣を立てゝゐる蒸氣機を見て、蒸氣汽關の原理を發見した。かうして、機械時代が招來された。

最初の機械は、粗雑で大きかつたので、繊細な女性の力では、到底操作することが出來なかつた。けれども、粗雑な機械は次第に改良を加へられ、ますます複雑に、ますます精巧に



なつて来た。その結果は、女性の織細で器用な指先を必要とするやうになつた。紡績機械や  
タイプライターは、女性に新しい仕事の道を拓いた。そしてこの事實こそ、男性家長制下の  
人類文化に、第二の重大な革命を齎したのである。

### 機械文明と女性

機械時代がはじまると共に、女性は公然と男性と競争する機会を與へられた。今まで、臺  
所の隅ツこで小さくなつてゐた女性たちは、自分自身の生活の糧を得ようと、競つて工場へ  
工場へと流れ込んだ。この時代の初期には、女工は驚くべき低賃銀で酷使された。けれども、  
彼女たちは一步一步自らの勢力と基礎を築いて行つた。そして遂に今日では、女性は世界に  
おける富の生産に對して、男性と對等の立場に立つやうになつた。女性の操る紡績機とタイ  
プライターの鍵の音が、世界の各所から勇ましく聞えて来るやうになつた。彼女等は、今ま  
で男性によつて支配され、壟斷されてゐた經濟や、政治や、道德律の上に、同等の權利を聲

高らかに要求するやうになつた。

難攻不落だと思はれてゐた男性の城塞は、勇敢な女性軍の猛襲に遇つて、續々と崩壊して  
いつた。商業、科學、藝術、文學、政治、法律、醫學等々の世界に、女性の進出が目立つて  
來た。男女同權の聲は、到るところの巷に滿ち溢れた。一世紀経つか經たない中に、この激  
しい革命が成就されたのである。特にロシアでは、西洋文明の歴史初まつて以來、實際に男  
女が對等の立場に達したといつても差支へない。

私はこゝで、女性解放の劇的物語について詳述する餘裕を持たない。それは、歴史家や社  
會學者や經濟學者等に任すことにして、極く簡単に、そのあらましを述べるに止めよう。

男性家長制下の男性は、男性こそ最も優秀な性であると信じてゐた。いや、さう信するこ  
とが、彼等にとつて好ましいことだつたのである。しかし、歴史の廻轉は、彼等のこの信念  
が正しくないことを説明した。何故かといふに、歴史の客觀的事實が、私たちに次のことを  
示してくれたからである。即ち、兩性のうちの何れか一方の性が、食糧供給の主人公にな



ると、その性が優秀であると考へられる。支配權を握つてゐる性は、富と機會を持つてゐる性である。従つて男性によつて主張され、信じられた所謂「優秀性」は、生物學的にも心理學的にも、何等の基礎を持つてゐない。現存してゐる「優秀性」は、單なる經濟的條件の一つの機能に過ぎないのであつて、生れながらの「優秀性」では絶対にないのである。

後世の歴史家は、われ／＼の時代を、成層圏飛行の時代とか、ラヂオの時代とか呼ばないで、恐らくは「女性解放の時代」と呼ぶことであらう。

しかしながら、あなた方は早まつて考へてはいけない。女性の眞の解放は、決して未だ成就されてはゐない。男性專制の傳統の中で、世界の女性は正當な權利を要求して、今盛に闘つてゐるのだ。家庭や、事務所や、工場や、商店などの職場は、何れも部分的な戰場であると同時に、兩性間の偉大なる宇宙戰の職場でもあるのだ。

女性解放の太鼓の音は、機械の響きと共に、次第に高まりつゝある。

## 男性への抗議

男性と女性の間のこの宇宙的な闘争は、男女兩方面に幾多の犠牲を齎らした。この闘ひの心理學的な結果は非常に重要だから、私は兩者の歴史的背景を、少しばかり検討して見ようと思ふ。

女の劣等性——その實それを證據立てるものは何一つありはしない——について、この傳統的な社會的觀念は、奇妙極まる心理學的現象となつて現はれた。即ちウィーンの有名な心理學者アルフレッド・アドラー博士が、初めて唱へ出した「男性への抗議」といふ心的態度となつて現ははじめた。

では「男性への抗議」とは何であらうか？ 簡単に説明すると、それは、女性自身が、自ら女性らしい一切のものを放棄するといふことである。髪を結つたり、お化粧をしたりする「女らしさ」を否認し、公然とこれに反對することである。そしてこの觀念は、實は女性が



自分自身の劣等性を暗黙の内に自認してゐるといふことを、はつきりと物語つてゐる。

彼女たちは、今日でさへ、男性が大部分の特権を獨占してゐると信じ、女性は女性なるが故に、不満足な状態に置かれてゐると思つてゐる。彼女たちは、男性のやうに振舞つて見たいと思ふ。そして、自分たち自身の美しい女らしさを、最高點にまで發揮させようとはしないで、逆に出来るだけ男と同じやうにならうと努力して、果ては、奇妙な人間戯畫になつてしまふ。男性の外観だけを装ひ、心理的には、哀れにも中性的な人間になつてしまふ。一例を挙げると、奴隷が開放されると、彼等の主人よりも遙かに傲慢になるといふ、あの心理學的な事實と、似たりよつたりの結果になるのである。

「男性への抗議」を示してゐる女は、たとへ男の世界において對等の地位を得ようと努力したところで、彼女は矢張り女性である。いかに外觀や態度を男らしく振舞つたとて、女性が女性でなくなるといふことはあり得ない。

女性の中には、藝術とか科學的研究の傍ら、立派に母たり妻たるの喜びを味はつてゐる人々

も幾らかはあるやうだが、大抵の女性は、先づもつて女であり、立派な仕事をするといふことは第二義的な問題である。近代の女性は、自分の選んだ仕事の中で、男性と同様に自分の有能さを證明したいと努力してゐるので、女であり、優しい心の愛人であり、よき妻であり、賢い母にならうとすることを忘れ果てゝゐる。それ故、やがては大きな誤算を生じ、後悔を招くやうになるのだ。

近代の過渡期的な世界では、女性は「何れかの一方」の上に生活を基礎づけようと努める。彼女は「女」であるか、或は立派な仕事の「専門家」であるか、そのどちらかでないければならぬと感じてゐる。そして「女」であることは卑屈なことであり、立派な仕事の「専門家」であることは、光榮なことだと信じてゐる。

「女」であるといふことは、家事上の仕事や、子供の養育や、料理や、洗濯や、裁縫などを良人のためにしなければならぬことを意味し、そのやうな女性は女奴隷と變りはない、と彼女等は決めてしまつてゐる。そして、彼女は別の道を選ぶ。彼女は勇を鼓して男性の仕事



の中へ飛び込んでゆく。そこで、彼女は自らの名聲と優秀性を獲得するために、男性を向ふに廻して、光榮の戦ひを闘ふ。そして、そのために彼女は「女」たることの歡喜や、あらゆる特權を放棄してしまふ。

私は、近代の女性が、昔の性的奴隷と何の變りもない古い型の女性に、何等の興味も持つてゐないことを認める。私はまた、尊大な男性を向ふに廻して闘ひ抜く、獨立的な女性の勇氣も十分に認める。しかしながら、私は斷言する、家庭的な妻となり母となることも、また立派な經歷の所有者になることも、それだけでは、どちらも、完全に幸福な女性になり切れるものではない、といふことを。

## 結 婚 と 職 業

女性は、四十歳近くになると、たまく自分の歩んで來た人生を振りかへつて見るものだ。彼女が家庭人であらうと、職業人であらうと、人生において最も大切なものを見逃してはゐ

ないだらうかと考へるやうになる。そこで、私はいまこゝに、幸福な女性となる秘訣ともいふべき心理學的法則を、あなた方のために呈示したい。

私は先づ、次の命題を示さう。第一には、すべての女性は、家庭人になるか、職業人になるか、何れかの一方だけに進んで行つたのでは、決して本當に幸福な女性にはなれないといふこと、第二には、正しい理智をもつた女性は、女らしい女であると同時に、また働く人でもあらうと志すなら、必ず幸福の鍵を握むことが出来るといふこと、この二つである。

さて、以下に職業婦人と人妻との、健全に融合された實例を擧げよう。

或る有名な醫者の奥さんで、二人の息子を持つた女性があつた。彼女は結婚前には、相當鳴らした音楽家だつた。けれども、結婚して最初の數年間は、醫院の家政や、赤ん坊の世話や養育に、全責任を持たねばならなかつたので、音楽の研究をすることは差控へねばならなかつた。が、音楽に對する彼女の熱情と興味は、少しも減退しなかつた。そこで、彼女は家政上の雜務が一應落ちつくのを待つて、再び心から愛してゐる音楽に没頭しはじめた。しか



し今では、以前のやうに自らステージに立つといふのではなくて、音楽の社會的地位の向上のために、一生懸命に活動した。彼女は隣保事業團や學校や團體などに、音楽鑑賞會を組織することに努力しはじめた。將來有望な若い音楽家たちのよき保護者となり、奨學資金まで工面してやつた。また、よい音楽を多くの人々に聞かせるためにあらゆる努力を拂つた。しかしながら、彼女は家庭に主眼を置くことを決して忘れなかつた。忠實な妻であり、聰明な母であることを決して忘れなかつた。彼女はもう五十歳になり、二人の息子は既に大學を卒業して、それ／＼の分野で活動してゐる。彼女は今でも、相變らず不遇な音楽家の面倒を見たり、音楽會や獨唱會の世話を焼いて、積極的に有益な活動をする傍ら、家庭の主宰者であり、よき妻であり、よき母であり、魅力あるやさしい隣人として、楽しく有意義に暮してゐる。彼女の體験は、私の命題に明確な解答を與へてくれる。即ち、女性は女であり、妻であり、母であると同時に、働く人にも、藝術家にも、學者にも、團體の主宰者にもなれるといふことを實證してゐる。彼女のやうな存在は、私のいふことが無鐵砲でないといふことを證明し

てくれるばかりでなく、充實した幸福な生活を求め、しかも勇敢にその道を開拓して行く女性にとつては、不可能なもの一つもないといふことをも、立派に證據立てゝくれる。

また、私はある女醫を知つてゐる。彼女は三人の子供の母親であるが、二つの診療所をかけ持ちして廻り、その上、人に頼まれ、ばどんなに遠くへでも往診する。

それからまた、老練な庭師であると同時に、六歳以下の二人の幼兒を養育してゐる女性もある。

私の知人に、澤山の連鎖店の總元締をしてゐる女性がある。その仕事だけでも、大の男がかゝり切りになるだけの分量があるのだが、彼女はそれと同時に都會に事務所を持ち、田舎に美しい家庭を持つて、三人の子供の養育と家政を、自分の手で切り盛りしてゐる。

また私のある知人の母は、相當大きな家庭の家政を自分で切りまはしながら、ある美術館で支那の美術品の管理をやつてゐる。またこれも友人の母であるが、近所に託兒所がなかつたので、自分の子供や近所の子供たちのために立派な託兒所を建て、その合間に大學を卒業



して學位をとり、今では暇な時間を割いて、國際政治の研究をしてゐる。

私は繰り返していふ、女らしい女であると同時に、働く人になることは、決して出来ないことではない、と。若しもあなた方が、私のいふことを信じないならば、先づあなたの周囲を見廻して御覧なさい。あなた方の知り合ひの中にも、大きな障害に直面しながら、それを克服して進んでゆく女性たちが、必ず一人や二人は居る筈である。

妻は、良人から十分に理解され、對等なものとして、人生の正しい伴侶として、尊敬され愛撫されるならば、良人と共に生活の重荷を分け合つたり、家事の煩はしさを處理するのを、決して厭はしいとは思はない筈である。いや、家事に没頭することを、恥かしいとか不名誉だとか感じなくなるであらう。いかに時代が進んだからとて、母の代りをするものはありやう筈がない。妻であり、母である女性の魂と個性が、あらゆる對照物を透して光り輝く、あのなごやかに喜ばしく、微笑ましいものは、家庭以外には絶対にない。

世の中には、良人や家族のために美味しい食卓を用意したり、室内を小綺麗に裝飾したり、

隅から隅まで家庭内のことに氣を配り、家庭的な藝術や手藝などに非常な感動を見出す女性も澤山あるし、その反對に、商賣に従事したり、法律を取り扱つたり、細菌學の研究に耽ることゝ感動を見出す女性もある。しかし、女性は男性よりも、生物學的にも心理學的にも、より家庭的であるといふ事實は、疑ふべくもない。

幼女時代に、不幸な經驗で心理的に歪められるやうなことのなかつた普通の女性は、大抵の場合、家庭の女主人公になることに、本當の満足と幸福の意義を發見するに違ひない。けれども、文明が發達して、輸送や通信が迅速になつた現代では、家庭内を處理して子供たちを養育することだけでは、智的な現代の女性を十分に満足させることが出来ない。それ故私は、ヒットラーが高度に解放されたドイツの女性を輕蔑して「教會と臺所と子供へ歸れ！」といふスローガンを掲げて、文明の時計を七千年もの昔へ逆戻りさせ、再び女性を奴隸状態へ趨かせようと企てたやり方に、絶對反對を唱へるものだ。

けれども私は、素晴らしい才能のある女性が「男性化」を企て、男の仕事の中へ身も心も打



込んでしまつたばかりに、女性の本當のものを見逃してしまつた、多くの實例を見て來た。晩かれ早かれ、彼女は魂の内に本質的な矛盾を感じ、恐らく自分の「男性化」の無謀と、頼りなさと、虚榮とを認識する時が、必ずやつて來るであらうと信ずる。

### 妻としての覺悟と用意

私は忠告する、母であり、家庭の妻たることを唯一の職能としてゐる女性は、何か他に自分に向くやうな仕事を探さない、と。同時にまた、職業に従事してゐる女性は、職業と家庭生活の融合の中に漂ふ、あの美はしい情緒的な和やかさを求めなさい、と。

母であり、家庭の妻である以外に何でもない女性は、自分の仕事を立派に果して、時間に餘裕を持つやうになつて來たならば、何か自分に適當な研究や、事業や、スポーツや、藝術の中に、あなたの視野を擴大しなさい、と云ひたいのである。

すべての女性には、必ずどこかに、創造し、實演し、何かしたいといふ慾望がある筈であ

る。一生涯かゝつて、たつた一つの事だけしか果して來なかつたとしたならば、それは晩年になつて、満ち足りない寂しさを感じる因となる。だから、創造的な、完全な女性としての感激を楽しむやうに努めるならば、それ程幸福で満足なことはなからう。

今日、三十歳臺から五十歳臺にある女性の多くは、厳格な男性家長制の環境の下に育て上げられて來た。そして今や中年に達し、自分が妻たり母たるの任務を十分に果して來たのを見るにつけ、料理したり、菓子を作つたり、カーテンを縫つたりして忙しがつてゐる間に、いつの間にか新しい世界が初まつて來てゐるのを、不思議なまなざしで眺めはじめ。彼女たちはまた、この新しい時代の潮流の中で、自分等の娘や妹たちが、一切の女性らしさを犠牲にして、「男性化」の渦の中へ飛び込んでゆく姿を目撃する。そしていろ／＼の懷疑の念を持ち初める。——技術的な教養も何等の才能も、自分たちにはありはしない、と彼女たちは嘆息する。

かういふ女性に對して、私はかう云ひたい、今まであなた方がどんなことをして來たとて、



一向差支へない、たとへあなた方が、臺所の竈に縛りつけられて来たとしても構はない、それからまた、女は劣つたものだと思はれて来たからとて、何の差し障りもない、すぐに立ち上つて、現在起りつゝあるあの怒濤のやうな女性解放の潮の中へ参加するよう、勉強し、研究し、努力しはじめなさい、と。さあ、直ぐ今から用意しなさい。これからあなたの暇な時間を、積極的に利用するやうにしなさい。さうすれば、將來あなたを悩ます神経病は、おのづと取り取られてしまふ。

若しも、あなた方が私のいふことを信じないなら、あなた方の周囲で最も成功した女性の生活方法をしらべて見なさい。さうすれば、私の忠告が實際的な眞理であることに気がつくに違ひない。

これまで、退屈するのが厭さに、娯樂や趣味に専念して来た女性が、自分の良人が何かの事情で失業の憂き目を見た場合に、忽ちその趣味や娯樂を職業化して、しばしば家計を保つて行つたといふ例が決して少くない。職業化することの出来るやうな趣味や娯樂は、十分に

練達して置く必要がある。

私の知合ひのある女性は、いつも友達から戸棚の造作が器用で、獨創に富んでゐるといふので褒められてゐた。ところが、不幸にも彼女は良人と別れねばならなくなり、全く自分一人で自活して行かねばならなくなつた。そこで、今まで半ば趣味でやつてゐた戸棚の設計や裝飾を、商賣にしようと思ひ出した。そして現在では、その方面の第一人者になつた。

またある女性は、自分の友達をスケッチした小品文を書いて、自ら楽しんでゐた。ところが今日では、悪戯半分に書いて集めて置いた材料を小説の素材にして、彼女は素晴らしい成功を収めた。批評家たちは、人間性に對して稀らしい直感力を示してゐるといつて、彼女の作品を激賞した。彼女の著作から入る印税で、娘は大學へ通ふことが出来た。若しもこの収入がなかつたなら、この娘は教育を受けることも出来ずに、生涯をタイピストか書記で過さなければならなかつたらう。

さて、今度は最初から自信を持つて、職業に進んで行つた女性のことを述べよう。あなた



は、職業を學ぶために數年間を費した。それから、職場で數年間を送つて來た、そして今では、他人から羨まれるやうな評判を得た。さてそこで、現在のあなたに、一體何があるのか？あなたが異常な女性でない限り、家庭と爐端と子供を求めろノスタルヂアを、心のどこかに持つてゐる筈である。

名譽とか、金とか、名聲とかいふものに總ての理想を託し、あらゆる女らしさを犠牲にして來た未婚の女性は、たまくその理想に到達した時に、それらの理想が味氣ない、眞實性のない、空虚な一篇の小説に過ぎないことに、氣がつくに違ひない。仕事の上の名聲とか、聰明さとか、否、銀行に預けた金でさへも、寒い夜の寂しい一時には、何等の慰めにもならないといふ、奇妙な現象を呈するのだ。

今や、あなたは心の財産目録を作つて、將來の計畫を設計すべき時である。若しもあなたが結婚してゐないなら、良人を持つといふ眞實な問題を眞剣に考へるべきだ。若しもあなたが、母となるには餘りに歳をとりすぎてゐるならば、養子を貰ふといふことを眞面目に考慮す

べきだ。あなたがいかに頑張つても、名聲とか物質のために、一生涯働き通すことは出來ない。それらのものは部分的の價値しか持つてゐないといふことを、よく理解しなくてはならない。どんな女性でも、抽象的な理想に活力を與へる、愛と家庭とを持つてゐない限り、理想だけのために働いて行くことは、出來るものではない。

人生の完成といふことは、「いづれか一方」だけでは爲し遂げられないといふ原理を、はつきり記憶する必要がある。それは「兩者が一體となる」ことによつて、はじめて築き上げられるものなのだ。

金とか、名聲とか、威信といふものは、共有の原理の下でなければ、何の意味もない。そしてあなた方がジェーン・アダムス女史とか、マリー・キューリー夫人でない限りは——アダムスとかキューリー等は全世界と共にそれらを共有することが出來た——あなた方はそれらを身邊の、良人とか子供とか、或ひはそれがなければ、親切な隣人とかと共有しなければならぬ。若しそれが實際上不可能ならば、あなた方は自分の信する團體への奉仕に身を捧



けて、社会的に有用な努力をなすべきである。

相當の経験を味はつて來た女性は、社會事業や、政治や、社會立法や、成人教育等の分野に、自分の活動の本當の焦點を、しばしば見出すものである。最初の三十年とか四十年は、ホンの準備期に過ぎない。それを過ぎると、はじめて人生を意義づける仕事がつて來る。女性はいくら年をとつても完全な人間になれる、といふのが本書の命題である。

未亡人と離婚の問題について一言しよう。未亡人にとつては、働くといふことの必要が、しばしば突然に起つて來る。家庭生活が破綻すれば、無理矢理にも何かの職業に就かねばならない運命に逢着する。私は、勇敢にその運命を受け容れ、少しも躊躇することなく、營々と仕事の世界に獨立の生活を築いて行かうとする、幾多の女性を知つてゐる。彼女たちの中には、最初から職業に身を委ねて來た女性よりも、適かに成功した例が少くない。また亡夫の遺業を繼いで成功した未亡人もある。これなど、亡き良人に對することよなき記念ではなからうか。

親戚や友達の家で寄食してゐる未亡人よりも、收入こそ少なけれ、獨立の生計と自尊心を失はずに、人生の道を歩んでゆく未亡人の姿の方が、どんなに好ましいか知れない。

### 閑暇を利用する法

今日の女性は、家庭の主婦であらうと、妻であらうと、職業婦人であらうと、何かの専門家であらうと、中年期になると云ひ合したやうに、あり餘る時間をもてあましてはじめる。醫者は私たちに、どうすれば長生きするかと教へ、機械技師は、どうすればより短い時間でより多くの能率が擧がるかと、私たちに教へてくれた。その結果は、今日では、世界中のすべての中年女性に、計りがたい程の退屈な時間を與へるやうになつた。

黄金時代のアテネの貴族たちの最大の問題は、どうして閑暇な時間を費すかといふことだつた。そして、ギリシヤに黄金時代がつて來たのは、實にその閑暇を積極的に利用したお蔭であつた。それ故に、若しも私たちが今日の好機會を捉へるならば、私たちがまた、新し



い黄金時代の玄關口に立つことが出来るのだ。今日は、ある程度の容観性を以て、すべての女性が閑暇の問題を見つめねばならない時代である。時を殺して、時を使つてゆくだけでは十分でない。どんな女性でも、時を殺して成功したものはない。否、逆に時がすべての女性を殺して來たのだ。

若しも今日の中年の女性が、ナイト・クラブや、カフェーや、ダンス・ホールなどで熱狂的な快樂だけを求めてゐるとすれば、それは問題とするに足りない。下らない小説を面白がつて讀んだり、お喋りに時を過したり、大した買物でもないのに一日が、りて百貨店廻りをして、大切な時間と精力を無駄に費してしまふなど、全く以てもつたない極みである。時は積極的に活用してこそ、生活に喜びと意義を齎らすのだが、時から逃げ去つたのでは、後味の悪い苦痛だけが残るのみだ。時は女性、殊に中年の女性にとつて最大の友であると同時に、最大の敵でもあるのだ。

自分の中年時代を意義深いものとし、晩年を明朗なものにしたいと望んでゐる近代の女性

は閑暇な時を欠伸をして無駄にしないで、何等か自分の個性に合致した、趣味とか娛樂とかに練達して置かねばならない。娛樂といひ趣味といつても、なか／＼種類が澤山あり、社会的なものもあれば、個人的なものもある。職業婦人である女性は、一人ぼつちな時間に、一人で楽しんで行けるやうなものを選んだがよからう。語學の勉強や讀書や、或ひはまた陶器や繪畫の蒐集などは、大變よい趣味である。また一日の大部分を家庭内で暮して來た女性は、家庭外の社會と接觸出来る娛樂を選んだ方がよいと思ふ。體質の弱い女性は、健康に役立つやうに、スポーツとか、旅行とか、庭作りとか、或ひは動物の飼育とかいふやうな、戸外でやるものがよい。

すべての女性は、創造を熱望する深い生物學的慾望を持つてゐる。母たることもまた創造の喜びの一つであるが、母たり得ない運命に置かれた女性は、何か有益な藝術的創造とか、政治的、社會的、文化的な分野において、この創造的慾望を満足させたいと思ふものである。



## 妻のための有益な娯樂

256

閑暇の問題を理想的に解決するには、獨りぼつちでゐるときにもやれる娯樂と、他の人々と一緒に樂しめるやうな娯樂との、兩方を持つことが必要である。私が薦めたい娯樂は、特に創造的な藝術的なものでありたい。

若しもあなた方が、どんな娯樂を選んだらよいかよく解らないならば、それはあなたが社會から離れて暮して來た證據である。それ故、あなたは先づ第一に、自分の身近の人たちに、娯樂や慰み仕事についての話を聞く必要がある。そして、早速自分に適當だと思はれるのを選ぶべきである。一日遅ければ、それだけあなた方の損になるのだ。

どんな女性でも、娯樂の中に自己を表現して見るまでは、本當の自己といふものに氣づかずにゐる場合が多い。従つて、よい娯樂の中から優れた自己を發見した歡喜は、例へようがな。

私は今、神經衰弱に悩んで相談に來た、ある女性のことを頭に浮んで來た。私は二時間もかゝつて、彼女の今までの症狀を聞いた。彼女は、天井も壁も床も、一樣に鏡を張り繞らした部屋で、暮してゐるやうな氣がするのだつた。彼女は何處を見ても、何をして、自分の姿と直面しなければならなかつた。そこで私は考へた、差し當つて彼女に一番必要なことはなんであらうかと。そして、彼女の精神的な、情緒的な視野を、もつとく廣々とさせることが眞先きに必要だ、と私は考へた。そこで私は、彼女をある製陶工場へつれて行つた。そして、一塊の土からどうしてあんなに美しい陶器が作られてゆくか、その工程を彼女に見せて歩いた上で「どうです、あなたも一つおやりになつて見ては？」と彼女を促した。彼女は半時間程も手を泥だらけにして、陶工たちを眞似て、指をもどかしさうに動かしてゐた。それ以來彼女は懸命に陶器作りを習得し、今では相當優れた作品を作るやうになつた。彼女の心の視野も廣々と深いものになり、神經衰弱の徴候に跡かたもなく消え去つた。

私はまた、神經衰弱で苦しんでゐる或る女性を、貧民窟の運動場へつれて行つた。そこで

257



私は彼女に向つて「あなたはこゝで子供のお友達をおつくりなさい。お友達が出来ないうちは診察所へ歸つて来てはいけません」と命じた。その時の経験が因で、彼女は今まで知らなかつた別の世界に興味を持つやうになつた。彼女は今日では、婦人のクラブや、學生のグループや、保護者や教師の團體へ行つて、運動場に就いての講演をして歩いてゐる。その上彼女は、ソヴェート・ロシアで少年少女たちの訓練のために採用されてゐる運動技術等について、相當突ツ込んだ研究をしてゐる。かうして、自分の人生に意義を感じはじめると、今まであんなに苦しんだ神経衰弱は、拭つたやうに全治してしまつた。

世界の歴史のうちで、今日程研究と創造の機會に恵まれた時代はない。讀みたいと思へば、どんな本でも安價に手に入るし、田舎に住んでゐても、都會の心臓部の鼓動を聞くことも出来る。ラヂオのスイッチを捻りさへすれば、どんなに遠いところのことでも、音波に乗つてお隣のやうに傳へられて来る。

若しもあなた方が、既に人生の半ばを越えてしまつてゐて、これからの年月を空虚な寂し

いものにしまいと心掛けるならば、それは心掛け次第で、いともやさしいことなのだ。偉大な古典や、偉大な音楽や、偉大な文學や、偉大な劇や、人類文明の偉大な歴史などの研究で魂を豊かにし、生活を堅固にすることが出来ると思つたゞけでも、あなた方の心はどんなに快樂しくなる筈である。さて、今日から直ぐその計畫を樹てようではないか！

私がおんなにもくどくと、娯樂や趣味などの問題を強調して來たのは、餘りにしばしば不用意な女性たちを目撃して來たからである。閑暇な時間をぼんやりと無駄に過して、中年を過ぎてから、孤獨と恐怖の影に怯える女性たちが少くないからである。頽廢的な、世紀末的な人工的享樂から唯一の喜びを得て來たやうな女性にとつては、その晩年は餘りにも慘めなものだ。彼女は自分自身が世間から捨てられたものゝやうに感じ、青春時代に自分が受けた賞讃やおべつかを、もう一度取り戻すために、狂的なまでにあせりもがくので、心身ともに衰弱して、哀れな晩年を送らなければならない。



## 神經衰弱の原因

女性は、生きてゐる限りは、精力と創造の發電機である。そして、これら神の與へ給ふた能力を積極的に利用する限り、女性の運命は必らず幸福なものになる筈である。しかし、若しも彼女が自己の内部にひそんでゐる能力を發見し、育て上げることをしないならば、彼女は不可避免的に神經的な病魔の犠牲となり、暗い半生を送らねばならなくなる。

よく見かける例だが、中年をすぎた婦人が、一日中ぶつぶつと不平や泣き言を云つたり、華やかなりし若い頃の繰り言を、愚痴のやうに人に訴へたりしてゐるが、あなた方はこのやうな女性が、一體どんな心掛けでこれまでの人生を送つて来たか、考へてみたことがあるか。晝となく夜となく、神經衰弱に悩まされ、一日一日と身も心も細つてゆく、かうした女性に接するたびに、私はつくづくと考へさせられる。若しも彼女が眞剣に人生を考へ、一寸した努力を惜しまなかつたら、こんなに不幸にならないで済んだらうに、そして今よりも十倍も

の満足と幸福を得て居たらうに、と。

今まで職業婦人として、實際的な生活をして来た女性や、自分の持つてゐる精力をいつも有益に利用して来た女性が、中年期に入つたからといつて、突然今までの生活を棄て、家庭の奥に閉ぢこもつてしまふと、彼女は忽ち精神的に病氣になつてしまふ。今まで賢明な生き方をして来た女性にとつても、中年期は大變危険な時期なのだから、ましてだらしのない、不賢明な生き方をして来た女性にとつては、中年期ほど怖ろしいものはない。かういふ女性には、自分も早や何の役にも立たない人間になつてしまつたと思つて、現實から逃避して、自分を世間から孤立させてしまふ。そして、家庭の奥に閉ぢこもつて、自分の精神的及び肉體的の精力をから廻りさせるのだ。彼女の生活には、も早妄想と、心配と、恐怖と、自己折檻以外には何もものもない。徒らに自分の肉體を無秩序に活動させ、もがき、苦しみ、悲しむばかりである。けれども、かういふ状態は、利己主義と、臆病と、無智との當然の結果で、中年期の到來を覺悟して豫めその準備をしてゐる女性は、かうした悲しむべき運命に遭遇す



る心配はない。

世界の歴史を通じて、現代ほど、女性が社会的なあらゆる仕事に参加出来る時代はない。現代の女性の前には、人類の歴史はじまつて以来、かつて見ないほどの華やかさをもつて、あらゆる種類の仕事が開かれてゐる。あなた方は政治にも、實業にも、藝術にも、その他あらゆる方面に進出して、華々しく活動することが出来る。そして中年期になつても、世間から責任ある使命を負はされ、強い信頼をかけられて、人々から尊敬される。あなた方の周囲には、社会的な仕事に参加して、人類の輝かしい光榮を勝ち得たばかりでなく、自己の無限の幸福と満足とを勝ち得た女性が至るところに見られる。そして、あなた方自身も亦、その仲間に加はることが出来るのだ。かういふ女性は、社会的にも家庭的にも非常に幸福で、人類のためにつくすことが出来ると同時に、良人のため、子供のため、隣人のためにも、同じやうにつくすことが出来るのだ。そしてかういふ女性こそ、本當の意味において、夫婦愛を完成させることが出来るのだ。

## 中年女性の精神生活



### 精神の安定を求めぬ心

青春時代には、男でも女でも、活動性とか、科學とか、論理とか、理性とかを好んで、それによつて人生のあらゆる問題を解決して行かうとする。そしてどんな事柄でも、合理的な、科學的な言葉で表現しなへすれば、それで萬事が解決するものと考へたがる。彼等は嚴格な尺度と、自由な、束縛されない情熱と希望をもつて、全世界のあらゆる問題に直面する。また個人の力を信じ、激しい勞働の成果を信じ、純粹な論理と理性の威力を信じてゐる。科學は、いはゞ、現代の青年男女の宗教である。

ところが、中年期に入ると、ものゝ見方や考へ方が随分變つて來る。四十前後の婦人は、も早合理主義や、科學や、論理などに食傷して、大抵胸を悪くしてゐる。彼女の胸の中には、幼年時代のあの美しい信念と、安らかな心の安定とを求めぬノスタルチアが、忽然として頭をもたげて來る。そして、若しも彼女が世間的にどんなに成功し、どんなに名譽を博してゐ



ても、さうした成功や名譽が、彼女自身の幸福のために何の意味もない、空虚なものに過ぎないことに気がつくであらう。また、若しも實驗室や、會計室や、教室や、家庭の仕事にどんなに興味をもつて没頭してゐても、忽然として、自分の活動の意義や目的に對して疑ひを持ちはじめるとして、激しい勞働や經濟的成功から得られる合理的な、常識的な報酬以上のあるもの、つまり自分の生活にもつと根本的な意義と價値とを與へてくれる哲學的なもの、宗教的なものを要求しはじめるとして、この哲學的なもの、宗教的なものを求める氣持は、何か劇的な事件が突發した場合、それをきっかけにして突然芽を出すことが多い。

私の知つてゐるある婦人は、人生的な哲學や精神的な問題などはまるで考へもせず、幸福な、何の心配もない生活を送つて、やがて四十になつた。ある時、船でアメリカへ渡る途中、北大西洋の冬の航海につきもの、あの激しいいけに遭つた。彼女は夜會服の盛裝をして、船内の酒場に腰を下し、ちびりちびりとカクテルの杯をなめながら、ナンセンスな雑談に耽つてゐた。その時、突然山のやうな激浪がデッキを襲ひ、散策場になつてゐるデッキ

の硝子戸を打ち破つて、怖れ戦く船客を階段口から下の部屋へ押し流した。彼女は狼狽して、椅子から立ち上り、窓のところへ行つて外を覗いた。するとそこには、傷ついた水夫が顔を血だらけにして、もがき苦しんでゐるではないか。彼女は苦痛と恐怖と絶望のどん底にある水夫の顔を見て、忽ち悲鳴をあげてその場に倒れた。そしてすぐにボーイに助け起され、自分の船室へ連れて行かれて、そこで靜かに寝かされた。この瞬間、彼女の精神に大きな變化が現はれた。人間と機械と大自然の物凄い闘ひに直面して、彼女は突如として人生に對して新しい眼を開いた。その後、彼女はこの出來事を思ひ出して、しみじみと語つた。「私はあの水夫の表情の中に、キリストの苦悶の顔を見ましたわ!」と。今では彼女は非常に敬虔な、宗教的な女性になつた。そして、今までの熱狂的な活動を放棄して、それまで家庭教師や學校の先生にばかり任せ切つてゐた子供たちの教育に、献身的な努力を拂ふやうになつた。

もう一人の婦人は、息子の病氣をきつかけにして、心の中に一種の宗教心が芽生えた。彼女はもと／＼熱情的なスポーツ婦人で、ナイト・クラブでも華やかな踊り手であり、自動車



やヨットの操縦も得意だつた。ところが、八つになる子供が、突然麻疹にかゝつた。彼女は忽ち家庭の人となつて、長い病床にある子供を眞剣に看護し、醫者や看護婦など、狂氣のやうになつて相談しつゞけ、更に良人の身のまはりを何くれとなく自分で世話しながら、多忙な幾週間かを過したが、これをきつかけにして、彼女の人生に對する態度がすっかり變つてしまつた。彼女は、自分の宗教的情熱を教會や牧師の許へ運んで行くやうな、舊式な女性ではなかつたが、その代り、哲學の研究や宗教史の研究をはじめ、その中に、子供の病氣前は全然思ひもよらなかつた深い平和と、靜かな喜びのあるのに氣がついた。そして彼女は、スポーツとか踊りとかのやうな肉體的な喜びから、人類奉仕といふ靜かな、しかし一層深い喜びの方へと向つて行くやうになつた。

けれども、精神の安定を求める心は、必ずしもしげや病氣などのやうな、突發事件によつて芽生えるものとは限らない。それは、昔の豫言者が曠野を歩きながら聞いたといふ、あの「靜かな小さい聲」のやうに、夜の沈黙の中で靜かにやつて來ることもある。ある婦人がオ

イストリアの山嶽地方を旅行中、戯れに白雲石山脈の頂上近くの山小屋で一夜を明かした。ところが、翌日山脈の麓の宿舎へ戻つて來た時には、彼女は今までとはすっかり違つた人間になつてゐた。「數々の星のあの怖ろしい沈黙、あの薄氣味悪い、人を巻き込むやうな沈黙が、大管絃樂のやうに私を恍惚とさせました。そして私に向つて、この地球の外皮の上を狂氣のやうになつて、あくせくと駆けまはつてゐる私たちの生活よりも、もつと深い、もつと大きな目的を持つ生活がこの世にあることを、靜かに話してくれました。私はこれから餘生をさゝげて、その新しい生活を探つもりです！」といふ意味の手紙を私にくれて、彼女の生活の中に精神的な自覺の到來したことを、はつきりと知らして來た。大勢の男女と絶えず接觸してゐる人は、自分の周囲の人々の間に、これに似た實例をいくらでも見聞するに違ひない。人間は五十歳にもなれば、靜かに自分の心の中を眺め、永遠の疑問である「如何に生きべきか」といふ問題を考へて、誰しも精神の安定を求める氣持になるものだ。

生きることゝは、人生の價値と意義とを探求することである。そしてこの探求は、中年期



になると俄然強烈になつて来る。青春時代の女性は、戀愛や仕事や知識などに心を奪はれてゐる。そして人生の流れの中へ飛び込んで、手當り次第にあらゆる種類の價値あるものをつかまへるが、それが窮極において人生にどんな意義があるかを、立ち止つて考へて見ようとはしない。けれども、中年期になると、青春時代にあれほど熱心に擁護した幾多の價値も、結局は空虚な殻に過ぎないやうに思はれて来る。彼女は今まで擁護してゐた價値を實際に試して見て、結局、何かしら足りないものゝあることに氣がついたのだ。それと同時に、今まで願ひもしなかつた別の價値が、突然新しい光を放ちはじめるやうになる。

### 眞の宗教の必要

どんな人間にも、宗教といふものは必要である。けれども、こゝにいふ宗教とは、生命哲學若しくは世界觀のことである。

人間は、榮養や生殖などの生物學的な活動の中に、生の意義を見出すだけで満足してゐる

植物體ではないのだから、如何に生くべきかといふ問題を全然考へないで、年をとつていくことは出来ない。人間は價値と意義とを創造する動物で、男子でも女子でも、各自の生活の中にそれを創造していかなばならない。それをしない人は、人類の特權を放棄しなければならぬ。かういふ問題に全然努力を拂はない人は、自分自身に危険な傳染病を感染させるやうなもので、場合によつては、それは自殺への第一歩となる。人生の價値と意義との結晶したもので、つまり宇宙における自己の地位を認識することを、私たちは宗教と呼んでゐる。この意味から、宗教を持たない中年の女性は、實に墮落した女性である。

私が宗教の必要を主張するのは、いふまでもなく、あなた方が浸禮教徒とか、カソリック教徒とか、回教徒とか、佛教徒とかになつて、人生の意義を發見しなければならぬといふのではない。これらの既成宗教は、その教義を誠心誠意信じてゐる人々にとつては、相當の價値がある。宗教のエッセンスは信念で、信念は超論理的であり、超個人的であり、超合理的である。宗教の力は、それが論理的に證明出来ないものであり、科學的に實證出来ないも



のだといふところにあるので、合理的な宗教などいふものは、神秘的な紡織機械と同じやうに、この世に存在することが出来ない。

形式的な、傳統的な既成宗教は、今日もなほ社會に大きな勢力を持つてゐるが、それは決して有効確實な眞の宗教ではない。これとは別に、もつと價値ある、もつと正しい宗教がある。それは、多くの思索的な男女が自己のために創造しようとしてゐる、個人的な宗教、つまり世界觀の把握である。教會とか寺院とか、眞の宗教的感情に必要な道具だと信ずるのは、大きな誤りである。眞の宗教といふものは、形式化した信念とか、儀式とか、偶像とか、教理とかを必要としない。すべての宗教は、要するに、個人と宇宙とを神秘的に融合する手段である。それは形而上學的價値の組織であり、人間を論理とか理性とかの狭苦しい範圍から解放して、自由に飛躍させるものである。毎日牛のやうに働いてばかりゐて、遊ぶことを知らない人間は、やがて愚鈍な無感覺な人間になる。理窟ばかりいつてゐて宗教心のない人間は、やがて精神のないロボットになる。

多くの女性は、中年期に達すると、自分たちが幼年時代に教はつた教理や宗教的信念に對して、非常な反感を抱くやうになる。私たちの宗教教育者たちが、宗教を形式化し、嚴格な儀式を強制して、愚鈍な合理化によつて宗教を正當化しようと試みたため、かうした不幸な結果を來たしたのだ。若しも彼等が、宗教教育からあらゆる獨斷を排除して、信念といふ美しい、神秘的な情緒的な要素だけを強調してゐたなら、どれだけ有益だつたか知れない。

私たちは人生を、自然を、宇宙を、いとも樂しげに、合理化しようと努力してゐる。けれども、正直に調べて見ると、人生には非合理的な、非論理的な幾多のものが存在することを、私たちは認めねばならない。人間は、三十若しくは四十までの間は、懷疑主義や合理主義などによつて、あらゆる宗教を權威のないものとして輕蔑したがる傾向がある。けれども、中年期に達して、生や死の問題を考へるやうになると、一種の宗教心が湧然として起つて來る。勿論、形式的な宗教は一時的のものに過ぎない。それは勃興して、絶頂に達し、衰頽して、崩壊してしまふ。けれども、眞の宗教は、人間が存在する限りつゞいて行くものだ。何故な



ら、すべての人間には信念が必要だからである。

### 毒牙を磨く類似宗教

人生に失敗して、絶望のどん底にある女性は、始終おどくとした、不安定な氣持に襲はれてゐる。かういふ女性は、しばしば子供の頃のことを思ひ出し、両親に手を引かれてよくよく歩いた子供時代を夢に見たり、両親に可愛がられて楽しい月日を送つた、少女時代のことを夢に見たりする。

中年時代に入つて、神経衰弱に悩まされてゐる女性の中には、子供の頃の夢をまたしても見るといふ人が大變多い。「私は小學校へ出る前に住んでゐた家へ、もう一度戻つて来たやうな氣がするのです。私の部屋には小さな白い机があり、外國の少年が波止場を歩いてゐる繪が壁にかゝつて居り、その他子供の頃の部屋の中が細々と見えるのです。突然、何ものか私をいぢめますので、大聲をあげて泣き叫びますと、亡くなつた父そつくりの男が私の部屋

へ入つて来て、私を抱き上げてくれるのです。すると、私の氣持が子供の頃のやうにすつかり落ちついて來るのです。」これは、事業に失敗して殆ど全財産を失ひ、自分の將來を非常に不安に思つてゐる、四十五になるある職業婦人の夢である。彼女は無意識の中に、獨立した職業婦人としての生活をはじめ前の、あの平和な安らかな氣持を、もう一度味はつて見たいと思つてゐるのだ。彼女は、父が自分を「小羊」と呼んだことを思ひ出してゐる。けれどもその父は、遠い昔に既に亡くなつてしまつてゐる。彼女はその父に代るべきものを求めて、私のところへ相談に來たのである。彼女は無意識の中に神を承け容れ、宗教を認めようとしてゐるのだ。

魂の安定を求めてゐる女性に向つて、私はこゝに一つの忠告をせねばならない。世の中には、いろいろな種類の人間が充満してゐる。あるものは俐口な實際的な心理學者であり、あるものはすこぶる付きの藪醫者であり、あるものは愚鈍な狂信者であり、またあるものは毒牙を磨く狼どもであつて、それらは何れも、中年期の女性の宗教的要求と精神的不安とを利



用して、餌食にしようと思つてゐるのだ。今日の世界は、至るところ狂信的な類似宗教が充満してゐる。それらの類似宗教の祈禱や儀式を見るに、どれもこれも個人の救済の唯一の御用商人にならうと志し、またどれもこれも口先ばかりでうまいことをいつて、これが本當の救世主だと主張してゐる。すべての類似宗教は、何れも口達者な信條をかゝけて、信者の精神的不安をごまかさうとしてゐる。かうした宗教の信者は、大部分が女性である。それらの女性は、自分の生活の中に意義や價値を發見することが出来ないで、かうした怪しげな類似宗教が與へてくれる、尤もらしく装つた欺瞞策に乗せられてゐるのだ。いつて見れば、贋造紙幣をつかまされてゐるのと同じである。

信者に向つて、教會の門をくゞる時には理智や批判力を放棄せよ、と要求するやうな宗教は、必ず信する價値のない贋物の宗教である。本當の宗教は、理智と少しも矛盾するものではない。それは、理智的な人間の生活を更に強め、事業に失敗したり家庭生活に敗れたりした人々を慰め、激勵し、力づけるべきものである。人間の悲しみや絶望を、巧言伶色によ

つてごまかすものではないのだ。

### 女性に危険な宗教

類似宗教のさまざまなたrickについては、こゝに改めて述べるまでもない。それらは眞の宗教と正反對のもので、何れも大同小異、悲歎と絶望の底にある人々、特に中年の惱める婦人を釣るための巧みな欺瞞策であり、悪辣な詐欺行爲である。贋物の宗教、例へば唯心主義とか、神秘主義とか、見神學とか、星占學とか、その他數へ切れない程の無数の分派は、何れもごまかしの宗教、逃避の宗教、空虚の宗教である。惱める人々を瞞して、偽りの安心立命へ誘き入れようとする宗教は、それ自身明白な精神病で、またさうした宗教に走る信者も、すべて一種の精神病患者に他ならない。かういふ信者は、敵に襲はれた時に頭を砂の中へ突つ込む鴉鳥のやうなもので、危険に對して一時的に眼を塞ぐことは出来ても、その危険を根本的に除くことは出来ない。このやうな宗教は、たとへどんなに立派な看板をかゝけて



ゐても、人間を腐敗させる以外に何の役にも立たない。

最近、東洋に發祥したある種の哲學や宗教を、西洋へ輸入しようといふ企てが、しきりに行はれてゐる。印度の瑜伽といふ宗教は、その國の社會的、經濟的、文化的、衛生學的な環境の中から、必然的に生れた信仰である。多産的な、人口過剰の、タヴーのために苦しめられてゐる印度では「勞働による」自己濟度の哲學は、あたかも蟻塚の上に築かれた自由の天地のやうに、およそ考へられないことである。

印度人の希望のない、飢えと貧困の生活から逃避するために、彼等は獨特の自己満足の宗教をつくつたが、それは西洋の世界では全然通用しないものである。印度の瑜伽の恍惚状態と、西洋の精神病院で見られる精神病者の早發性痴呆症とは、殆ど全然同じものである。それ故に、印度の神秘主義は、人生に失敗し、自己に失望してしまつた中年の婦人に對して、怖ろしいほどの魅力を持つてゐる。かうして、瑜伽の分派がヨーロッパの各地に次第に擴がつて行く。黒い皮膚をし、鬱金色の僧服をつけ、頭巾を冠つた印度の神秘家がヨーロッパの

港に到着すると、中年の貴婦人たちが忽ち彼を取り巻いて、神のやうに崇拜する。ところが、多くの貴婦人が彼を取り巻くのは、大抵の場合、彼の教へに興味を感じるのでなくて、實は彼の奇異な性的魅力に興味を覚えるのである。

東洋の内省的な、諦觀的な宗教は、西洋人には向かない。それどころか、東洋の諦觀的な、自己否定の宗教は、西洋人の精神や情操に大きな害を及ぼす。けれども、他日西洋文明が人口過剰に陥り、最早勞働による自己濟度の機會が全然なくなつてしまふ日が來るとすれば、その時には、ヒンヅー教の聖者たちの理想を模倣して、新しい救世主を作らねばならないであらう。しかしその時が來るまでは、自己否定者しくは自己放棄の東洋的な宗教よりも、自己確認の西洋的な宗教の方が遙かに勝つてゐる。

中年期に入つて、幸福な人生を生きて行きたいと思ふ女性には、絶対に唯心論者や、神秘主義者や、見神論者や、佛教徒や、瑜伽の信者などになつてはならない。何故なら、それらは何れも自己否定の宗教だからである。自己否定の宗教は、幸福な生活を願ふ人々にとつて甚



だ危険で、その理想や情熱を破壊してしまふばかりでなく、一種の精神病患者にしてしまふ。

280

### 精神の若返り法

ある女性は、科學的に説明することの出来ない夫婦間の深い愛情の中に、宗教を見出すであらう。ある女性は、豊かな空想や生命の創造の中に、またある女性は、藝術への献身の中に、この宗教を見出すであらう。ある女性は、科學の研究の中に、それを見出すことが出来るであらう。更にある女性は政治や社會の新しい哲學の中に、ある女性は何の束縛もない自由な享樂の中に、宗教的感情の芽生えを見出すであらう。

どんな女性でも、中年期になると、人生と宇宙との神秘的な融合を求める氣持になり、超個人的な原理にすがりつきたい氣持になる。そして靜かに自分の心の中を覗いて見る。今まで毎日多忙な仕事に追はれ、眼のまはるやうな生活をして來た女性でも、中年期に入ると、自分自身の魂の中を覗き、自分が何を求め何を感じてゐるかを、靜かに反省して見る。

中年期に入つて、自分の魂の中を覗くことがどんなに必要であるかといふ問題について、こゝに面白い例を紹介することにしよう。エヴェリンは思索的な生活から逃避して、非常に活動的な生涯を送つた。彼女は家庭のことはいふまでもなく、世間のあらゆることを自分で支配しなければ、幸福を感じることに出来ない女性だつた。しかも彼女は驚くべき活動家で、世間から「人間發動機」といふ綽名をつけられてゐた。

彼女はどんなクラブにも、どんなグループにも、どんな委員会にも、どんな儀式にも、どんな運動にも顔を出して、いろ／＼と議論を闘はせた。それでゐて、自分のやつてゐる仕事に何の連絡もなく、多くの仕事を一つの方向に向けようともせず、はつきりした主張も方針もなかつた。ある時、私は彼女に向つて「あなたは驚くべき活動力を持つて居られるが、何故もう少し落ちついて、自分といふものをお考へにならないのですか？」と尋ねた。

「あなた方精神病學者は、私を氣狂になさるのですわ。いつも眼を光らせて私の心理を監視したり、行爲の裏にひそむ動機とかを探しまはつたりなさるのですもの。私は人生を愛し

281



てゐます。そして、私が人生から取ることの出来るものは、手當り次第に兩手をひろげてつかみ取らうと思つてゐます。」と彼女は答へた。そして、猛烈な支配慾に向つて奮進する活動の背後にある、かくれた動機は何たるかを知らうとはしなかつた。私はその動機をちやんと知つてゐた。何故に彼女が、旺盛な活動力によつて自己を昇華させ、思索的な生活から離れて行つたかといふ理由を、私はよく知つてゐた。けれども彼女は、自分の心の底にある無意識的な慾求を認めようとはしなかつた。

年をとるに従つて、彼女は漸く肉體の衰へを感じるやうになつた。そして、かゝりつけの醫者を自分の救世主として頼るやうになつた。また毎年夏になると、無理にも温泉や海水浴場へ出かけて休養を取り、秋になるとまた狂氣のやうな奮進をはじめたのだつた。ところが、最近になつて、彼女の活動的な熱心と努力をもつてしても、どうしても解決することの出来ない問題が現はれた。それは精神が肉體と共に衰へはじめたことで、も早到底恢復しさうにも思へなくなつた。これは、彼女が自分の心の中を覗くことを嫌つたために生じた當然の悲

劇で、今からでも適當な處置をとりさへすれば、必ずしも避け難いものではないのだ。

ところで、エヴェリン夫人は何故精神病學者と相談することを嫌つたのであらうか。世の中には、頭痛がしたり胃が痛んだりする時には、少しも厭がらずにすぐに醫者へ行く癖に、精神病學者の門を叩くことは、差し迫つた狂人でゝもない限り、極端に嫌ふ人が多い。エヴェリン夫人はいつもかういふのだつた。「私のことは精神病學者より私の方が遙かによく知つてゐます！」と。いかにもその通りである。どんな人でも、他人の魂の中を探つて、その窮極の眞實を知ることが出来ない。けれども、精神病學者には一つの觀點があつて、それは普通の人の持たない特權である。エヴェリン夫人は、なる程私よりもよく自分の心の底を知つてはゐるが、しかしそれを變へることは出来ない。何故かといふと、彼女自身の眼には、その根本の動機といふものが見えないからである。

たとへば、あなたが鼻の頭に大きな墨をつけて、それに氣付かずに街を歩いてゐたとする。人々は通りすがりにあなたの顔をちつと見つめたり、笑ひを咬み殺したりする。するとあな



たは大いに憤慨する。人々があなたを笑へば笑ふほど、あなたは益々ひどく怒るであらう。ところが、あなたが怒れば怒るほど、あなたの立場はいよ／＼滑稽なものになる。やがてあなたの前に友達が現はれて、あなたの鼻の頭に墨のついてゐることを教へてくれる。するとあなたは聲を上げて笑ひ出す。

現代のやうな複雑な社会にあつては、訓練を積んだ観察者なしには、自分の心の中をはつきりと見透すことがむづかしい。精神病学者は、實にこの観察者の役目をつとめてくれる。あなた方の精神が混迷した時に、精神病学者の門を叩いて相談することは、あなた方の弱さを證明することではなく、直感と常識の豊富さを示すことである。必ずや、あなた方が今まで気づかなかつた、新しい幸福な世界へと、あなた方を導いてくれるに違ひない。

多くの女性の中には、毎日多忙な仕事に追はれて、自分の精神生活を観察したり、精神病学者の許へ相談に行つたりする時間がないといつて、抗議を申し込む人があるに違ひない。けれども、中年期の女性は、誰しも生と死の問題を熟考しなければならぬ。そして、宗教

的な信念をもつて、人生の常識的な、合理的な行爲を補強して行かねばならない。

中年期の女性は、自分のために何か宇宙的な哲學を、自分の生活にある意義と方向とを與へてくれるやうな世界觀を、探し出さねばならない。この世界觀を探し出すためには、現實に勇敢に直面して、労働や、性生活や、社會生活を積極的に享樂せねばならない。そして、かうした世界觀を確立した女性は、永久に精神的な若さを保ち、いつまでも完全な夫婦生活、幸福な家庭生活をつゞけることが出来るのである。



女性の人生は四十から



## 中年女性の生き方

私は本書の大部分を割いて、中年時代の女性に起つて来る種々の危険な問題を取り上げ、それに對して検討を試みた。そして、そうした危険な問題を克服するために、一つの基礎的な對策として、何處でも利用することの出来る常識的な方法を、いくつか提出しておいた。また、若しも女性が中年期の到來を認めて、勇氣と直感とを以てそれに接するやうにするなら、中年期は女性の午後ではなくて、却つて最上最善の女盛りの時代となり、最も完全な満足な夫婦生活を享樂することが出来るであらうといふことを、繰り返し述べておいた。

現代の文明は、人間の幼年時代と、青春時代と、成熟期の前半時代とを、あまりに高く評價し過ぎてゐる。また、私たちが休むことのない侵略的な人間であるためか、文明の標準を富や、名譽や、權力などにおいてゐる。これは若い文明の特徴である。けれども、文明が成熟して行くと——實際、成熟しつゝあることがはつきり見られる——標準が變つてくること



は、も早疑ふ餘地がない。

現代のやうな環境の下では、普通の女性は、中年期に入るともうすつかり老いぼれたやうな氣持になつてしまふ。そして、肉體的若しくは精神的に若返りの方法を講じて、中年期中に自己の幸福を見出し、活潑な、明朗な生活を送るといふことは、なかくむづかしいことである。けれども、中年期といふものをよく理解して、それに對して心の用意を怠らない女性は、中年期以後の生涯を意義深い、幸福なものにすることが出来る。この場合、支那は特別であつて、この國は中年の女性の樂園である。若い青年に向つて、あの婦人の年はいくつですか、と尋ねると、實際よりも三つか四つ多い年を教へてくれる。この點は、私たちの國とは全然反對である。それは何故かといふと、老年の晴朗さが若い男性から崇拜され、すべての人々から尊敬されてゐるからである。

けれども、四十の峠を越えたすべての女性が、旅行鞆を提げて支那へ逃げて行つて、そこで出會ふすべての若い男性から、おべつかをいつてもらへるわけのものではない。年代的に

見てもわかるやうに、支那文明は西洋文明よりも遙かに老熟してゐる。この點が若い西洋文明と異なるところで、中年期及び老年期の女性がすべての人々から尊敬される原因は、實にここにあるのだから、今日の西洋の文明、若しくは西洋化した文明の中に住む女性たちは、中年期以後にすべての人々から尊敬されたいといふ自己の慾望に、ある程度の妥協をし、現代の若い機械時代の現實に、ある程度の讓歩をしなければならぬ。

若しもあなた方が、中年期と老年期とを呪はしいものであると思ひ込んでゐるなら、あなた方はその時期に入るや否や、忽ち不幸に陥つてしまふであらう。頑として動かすことの出來ない一つの力が、あなた方を追ひ立て、あなた方自身が欲すると否とに拘らず、無理矢理に老年期へ押し込んでしまふ。心に準備のない女性が、自然のこの盲目的な原始的な力を防ぎ止めようともがいても、それは何の役にも立たない。

自分自身のことをよく觀察し、また、多くの女性たちが中年期とその特權とを享樂してゐるのを、冷靜に觀察し得るだけの知力を持った女性は、呪はしいのは中年期そのものではない



く、中年期に對する各人の態度であつて、それが中年期の女性を不幸にするのだといふことを、十分に理解するに違ひない。いつまでも青春時代の失はれた樂園をふり返り、見果てぬ夢にむせび泣きつゝその日その日を暮らして、何とかしてその樂園をもう一度復活させたいと、いつまでも儚ない希望を抱いて人生を送るのは、まことに笑止千萬な愚の骨頂である。

## 本當の青春

私たちは、青春の家に「さようなら」を告げて、辭し去らなければならない。そして中年期の生活にかへり、成熟した幸福と明朗な歡喜とを味はひつゝ、生き甲斐のある人生を送らねばならない。中年期を嫌ふ必要は毛頭ない。それと同じく、老年期の近いことを思つて恐怖を感じる必要も、少しもない。詩人ロバート・ブラウニングがいつた通り、人生の最初の幾十年間は、最後の幾十年間のために作られたもので、その最後の幾十年には特別の喜びがあり、獨特の權利があり、それ自身の幸福もあるのだ。すべての女性は、自分の中年期を價

値あらしめ、自分の生涯を意義あるものにするために、よりよい生活を送るやうに努めねばならない。

無理矢理に時の運行を防ぎ止めて、あたかも自分は年をとらないかのやうに振舞はうとするのは、これこそ馬鹿々々しい限りである。世の中には、近代生活の様々の技巧によつて自己を欺き、自分はまだ若いのだと自惚れて、生きて行ける女性も少くない。また、あたかも少女のやうに振舞つて、自己を欺き、世間を欺いて、まだ完全な女になりきつてゐないやうに装つて、生きて行ける女性も少くない。けれども、かういふ女性は、なんと精力を誤り用ひてゐることだらう。いつまでも眞實をつかもうとしないで、青春の外 觀だけをとどめて行かうと企て、なんと多くの幸福を取り逃がしてゐることだらう。かういふ女性は、蔭ではひそかに嘲笑されてゐる。見せかけばかりを氣にする、彼女たちの子供らしい、ロマンチックな振舞ひは、それを客觀的に見ることの出来る人々の眼には、なんと見えすいたものに見えることだらう。



青春とは、年齢とか服装などのやうな、外形的なもので決定されるものではない。それは、六歳とか、十六歳とか、二十六歳とかの年齢の問題ではないのだ。自分の年齢を正直に受け容れて、それに向つて自己を適應させて行くだけの弾力性。これが青春の最も根本的な要素である。それ故、青春は少女時代や青年時代に存在すると同様に、中年期や老年期にも存在する。要するに、青春とはものゝ見方、人生の生き方の如何の問題であつて、年齢によつてどうかうといふべき問題ではない。年は僅かに十六くらゐでも、すつかりふけ込んで、硬直してしまつて、融通がきかなくなつてしまつた、悲觀的な老いぼれた少女もゐるし、六十六といふ高齢に達しても、絶えず人生の新しい発見と新しい幸福とを享樂して、潑刺とした生活を送つてゐる婦人もある。けれども、四十六になつてから、十六の少女の無邪氣さや天真爛漫さをそのまま眞似ようとするのは、それは青春の證據ではなくて、却つて趣味の低さ、情操の幼稚さ、理智の貧弱さを示すものである。それは一種の神経病で、心の貧しさを示すものである。

### 夫婦愛を純化するもの

およそこの世界にも、幸福な夫婦生活をつゞけていくために、いつまでも若くありたいと願はないものはない。けれども、以上の考察から推論すると、女性がいつまでも若くゐられる唯一の方法は、外觀を若々しく裝ふことではなくて、却つて自分の年齢を正直に受け容れ、おとなしく年を取ることであるといふことがわかる。では、どうすれば正直に、おとなしく年がとれるかといふと、それには、先づ第一に、周囲の世界に絶えず新しい興味と關心を持つことである。そしてそれには、中年期の女性は若い女性よりも遙かに有利な地位にある。若い女性は、自分自身の問題を解決するために、時間と精力の大部分を費してしまつて、周囲の世界を観察したり、享樂したりする餘猶がない。ところが、中年の女性はさうではない。彼女は今や過去を振り返つて、古今東西の詩人や、畫家や、劇作家や、哲學者などが、人類に遺産として残してくれた、不滅の財産を享樂することが出来る。人類の思想や創



造を述べた偉大な古典は、若い娘には容易に理解することが出来ないけれども、中年期の女性には異常な興味をもつて理解し、味はふことが出来る。

シェークスピアの戯曲を讀んだり、レオナルド・ダ・ヴィンチの繪を鑑賞したり、ベートーヴェンの莊嚴な交響樂に耳を傾けたりして、その中に含まれてゐる本當の智的、若しくは情操的の樂しみを味はふことは、人生の幾多の經驗と客觀性とを持つた中年女性でなければ、なかくむづかしいことである。彼女はかうした大藝術家の作品の中に、自分自身の經驗を讀み取り、それを夫婦生活の糧にすることが出来る。

女性は、二十から三十へかけての活動時代を終らないうちは、失敗や希望の、絶望や犠牲の洗禮を受けないうちは、自分の住んでゐる世界の不思議を十分鑑賞することが出来ない。年をとると共に、次第に自覺が増して、自分の周圍を絶え間ないリズムでめぐつてゐる生の現象を、分析したり、理解したりすることに興味を持つやうになる。幼女時代の楽しい記憶は、その後の幾十年の種々の經驗を経てから思ひ出してみると、一層様しいなつかしいものになり、

える。それと同じやうに、青春期に學問的な衝動から讀んだ文學の傑作も、二十年後の晴朗な、居心地のよい自分の爐端で再讀すると、前に感じなかつた全く新しい價値と興味を味はふことが出来る。そしてこれは、あなた方の夫婦愛を高尙なものにし、あなた方の中年期を崇高なものにしてくれる。

### 遅咲きの戀愛

偉大な作曲家シューマンの妻のクララは、八歳の年まで言葉を知らなかつた。ところが、この異常に長い無言の時期が過ぎると、今度は反對に言葉の天才になつて、世界中のどの女性も及ばないほどの豊かな表現と、美しい言葉を持つやうになつた。多くの女性には、青春期の前とか中年期の前とかに、數年に亘つて精神的雌伏の靜かな期間があるものだ。それ故、幼年時代の性格が青春期に入ると共にガラリと變化することがあるやうに、青春期の夫婦生活における有頂天と性的過度が、中年期に入ると偉大な戀に變ることがある。



クララ・シューマンの幼女時代に、長い雌伏の時期があつたやうに、あなた方の生活にも、静かな雌伏時代がある。美しく咲き誇らんがためには、長い間地下にかくれて發芽生長の準備をしなければならぬ。青春時代の烈しい経験や活動的な生活を経て、この静かな雌伏の時代に入るまでは、夫婦がどんなに深く愛し合ふことが出来るか、戀愛とはどんなものであるかなどいふことは、本當には理解することが出来ない。

遅咲きの戀愛について、こゝに面白い實例がある。彼女は長い間、ある國際機關の委員として、相當高い地位にあつた。そして自分の仕事に非常な興味を持ち、すっかりそれに没頭してゐたので、彼女の生活の中へは、男性は一人も入つてこなかつた。彼女は仕事に熱中するあまり、戀愛や結婚についてはまるで考へても見なかつた。

四十二年の年、彼女はある重大な使命を帯びて、外國へ派遣された。この旅行の途中、同じ國へ留學する一人の建築家に遇つた。この建築家は彼女よりも三つばかり若かつたが、二人の間は忽ち親密になつた。この旅行中にはじまつた交際は、外國に滞在中に成熟して戀にな

つた。そして二人は結婚した。その後、この夫婦は従來通りの各自の仕事をつゞけ、仕事と愛情とを巧みに平衡させて、幸福な生活を送つてゐる。

この精神的に若い彼女が、外國へ旅行する前に、私がかしきりに結婚をすゝめると、彼女は昂然としていふのだつた「とんでもない、男の人を自分の生活の中へ引き入れて、私の仕事の邪魔をさせたくありませんわ。そんなことをして、二十年以上もつゞけて來た立派な仕事を蕪なしたくはありません！」と。で、その時私はいつた「よい結婚をすれば、あなたの仕事と衝突するやうなことは毛頭ないばかりでなく、却つて仕事の能率が倍加しますよ」と。その後、彼女が結婚してから六ヶ月ばかりの後、幾分恥かしさうに、かういふ手紙を私のところへよこした「かう申し上げますのは、いさゝか私の自尊心が許しませんが、あなたの御忠告が確かに正しかつたことを、私は今しみじみと感じてゐます。愛は仕事の邪魔をしないばかりでなく、却つて一層促進させ、面白いものにしてくれます。結婚後の六ヶ月間に、獨身時代の三ヶ年分にも優る仕事をしました。」と。



有名な婦人の傳記を見ると、かういふ遅咲きの戀の實例がいくらかもある。あなた方が青春時代を愛なしに過ごし、中年期に入ると、自分はもう戀愛にも性生活にも見棄てられてしまつた、自分は生涯愛のない生活を送らねばならない、とすつかり悲觀してしまつて、機會をのがしたことを悔いながら、絶望的なその日その日を送つて行くことは、非常に愚かな間違つたことである。

昔から、偉人といはれる人々は、多くは早熟の天才ではなく、晩成の天才であつた。少年時代や青年時代には、あまり有望でもなさうに見えた人が、中年期に入つてから、偉大な知的能力をめき／＼と發揮したといふ例は、決して少なくない。愛の場合もこれと同じである。たとへ青春時代を愛なしに過ごししてしまつても、それによつて、生涯愛の生活を經驗することが出来ないといふことはない。否、却つて中年時代になつてから、一層廣い、一層平和な愛の世界が開かれることがある。愛は、愛することを知つてゐる人々にとつては、決して死滅するものではない。四十を過ぎてから花の咲いた遅まきの戀が、しば／＼最も立派な、最

も眞實な愛である場合さへある。

## 女性 は 四十 から

中年期に入つてから、今までかくれてゐた潜在的な力が、突如として頭をもたげ、周囲の世界に新しい、活動的な興味を感じはじめることがある。ヘレンは大學を卒業すると同時に結婚した。彼女は二十一で、良人は二十二だつた。二人は一緒にジャーナリズムの方面の仕事をした。良人は小さな地方新聞を發行することになつた。それは小さな新聞で、良人は營業と一般の編輯を受け持ち、妻のヘレンは片手間にそれを手傳ひ、家政やゴルフや子供の世話をしたが、時々社説を書いたり、通信の仕事をする程度だつた。かうして幾年かたつうちに、彼女は普通のありふれた「小市民の奥さん」になつてしまつて、身のまはりの仕事や遊びに、大部分の時間を費すやうになつてしまつた。

やがてある重大な政治運動が起つた。良人は將來の一切の希望をその運動にかけて、自分



の新聞のすべての機能と財産とを提供して、それに参加した。ヘレンも良人の熱意に少しは動かされたけれども、やはりいつもの通りの平凡な仕事をつとけてゐた。ある夜、良人がある事件でひどく殴られ、傷だらけになつて家へ運ばれた。彼女は良人の看病をしたり、家政を見たりしてゐるうちに、突然、活動的な仕事をしたといふ情熱が、むら／＼と起つて來た。その時彼女は三十九歳になつてゐたが、良人の仕事を一切受けついで、新聞を經營しながら政治運動を繼續した。その仕事は、急に彼女に異常な元氣を與へた。彼女は自分ながら驚くほど、社説もすらく／＼と書け、編輯の仕事もうまく運ぶのだつた。彼女の昔のジャーナリストとしての意識と訓練が、再び蘇つて來たのである。かうして、良人が手を引いてからも、新聞の質は少しも低下しなかつた。

やがて、彼女の良人は、傷がもとで不幸にも死んでしまつた。しかも、彼女があらゆる努力を拂つたにも拘らず、政治運動は完全に失敗してしまつた。彼女は良人が亡くなるまでは、普通のアメリカ式の輕薄な女だつたが、良人がなくなつた瞬間から、是が非でも復讐しよう

といふ強い怒りを感じるやうになつた。政治運動の失敗と共に、彼女は今までの小新聞を廢刊して、アメリカでも最も大きな新聞の一つへ、論說委員として入社した。良人の復讐をする最もよい方法は、良人が熱中してゐた政治運動を成功させることで、それには大きな勢力を持つた大新聞を利用するのが最も効果的だと、彼女は考へたのであつた。けれども、論說委員として二ヶ年間血の出るやうな努力をしたにも拘らず、運動は遅々として進まないで、今度は思ひ切つて、實際の政治運動に身を投じた。

それ以來、彼女の活動はもの凄まじかりで、運動は着々と功を奏し、政府に幾多の社會的な立法をなさしめるまでになつた。こゝに注意してほしいのは、ヘレンは、普通の女性の仕事をやめようとする頃に、仕事のスタートを切つた點である。彼女はもう五十歳の初老に近い女であり、未亡人であり、三人の子の母であり、しかも財産としては別になにか弱い女でありながら、敢然とこの困難な運動に身を投じた。そして見事に成功を勝ち得て、健康な、活動的な、幸福な生活を送つてゐる。



四十歳の誕生を迎へると共に、社會に對して眼を閉ぢてしまひ、人生におさらばをつけてしまふやうな女性には、これはおよそ思ひもよらないことである。自分自身を、社會に貢獻する有益な一員であると自覺し、周囲の人々の諸問題に對して情熱と自覺を持つ女性でなければ、かういふことを望むわけにはいかない。中年期の復興は、世の中を住みよくするために努力に人生の意義を見出し、それに向つて勇敢に自己の運命を賭けるやうな女性にのみ、起つて來るものである。

四十歳になつて、人生に何等の希望をも持たなくなるやうな女性や、中年期の到來を死刑の宣告のやうに見做す女性や、愛も勞働も氣晴らしも知らないやうな女性は、自分のために自分で墓穴を掘つてゐるやうなものだ。これは明らかに一種の神經病である。かういふ女性には、近くの精神病院へかけつけて「女性の人生は四十から」の講義を聴くことが何より必要である。

### 新生活へのスタート

いつまでも幸福に生きて行きたい女性は、疫病に對して警戒せねばならないのと同じやうに、悲觀主義に對しても大いに警戒しなければならない。悲觀主義は活動力を低下させ、髪の毛を白くさせ、愛嬌を殺してしまふからである。それには、身近の人々の缺點や弱點を、ある程度まで黙認しなければならぬ。良人の缺點を一々指摘したり、子供の弱點をきめつけたりすることは、この悲觀主義の現はれの一つで、家庭の平和を破壊する以外に何の役にも立たない。それと同時に、終日茶の間に引つ込んでゐたり、愚痴をこぼしたり、愚痴つばい中年婦人と長く話し込んだりすることは、極力避けなければならない。

あなた方は冒險を嫌つてはいけない。自分の人生を少しでも幸福にするためには、すべてに積極的に進み、勇敢に機會をつかむことが必要である。いつまでも臆病な、消極的な生活をつゞけて、失はれた機會を惜しみ悔んで長生きするより、若し確信さへあるなら、危険を



勇して勇敢に機会をつかみ、一度で失敗したらまた出直すといふやうな、積極的な生き方をした方が、どのくらゐよいかしれない。

これから、四十以後の人生を勇敢に生きて、見事な成功を収めた二三の女性を紹介しよう。フロレンス・ナイチンゲール女史や、キューリー夫人や、ヘレン・ケラー女史や、マーガレット・サンガー女史や、ジェーン・マダムス女史や、チャールロット・ブロンテ女史や、ミラ・ヘス女史や、エレオノラ・デューゼ女史などのやうな、人類の幸福に非常な貢献をした女性たちの、感激的な生涯については、こゝにくどくどと述べるまでもない。かういふ女性は大なる聖者で、その傳記は若い女性も、中年の女性も、共に讀まねばならないものである。

極めて原始的な野蠻人でさへ、子供たちの自尊心と活動力を刺戟するために、その祖先たちの神話的な功績を話して聞かせる。あなた方は自己を鞭撻するために、また娘たちを刺戟したり、指導したりするために、人類の歴史に貢献した女性の傳記を讀まれることをすゝめたい。

けれども私は、歴史上の偉大な女性、例へばコルネリアスとか、エリザベス女王とかについて書かうとしてゐるのではない。この方面については、私より遙かに優秀な適任者がいくらでもある。私はたゞ、人生に對して「イエス」と答へて、世の中をもつと幸福な住みよい場所にしようと努め、自分の時間や精力や資力を、人類奉仕の目的にさゝげた女性について、述べて見たいと思ふ。彼女たちの名は世間的にはあまり知られてゐないが、何れも中年時代になつてから、非常な危険を冒して活動し、女性解放の旗を世界の隅々にまで押し立てた。

融通のきかない獨立新教の牧師の家庭で「善良な娘」といふ評判をとつて、三十五年間を過ごした女性があつた。ある日のこと、彼女も早無意義な生活を送りたくないと決心して、小さなスウィーツケース一つを提げて家を出た。そして所謂「極悪のロシア人」たちの間で暮し、コーカサス地方の邊鄙な村の「野蠻な子供たち」に手藝を教へはじめた。この女性こそ、自己を生かし、幸福にし、しかも社會のためにつくさうとして、英雄的な行動をとつた女である。



また、四十五歳になつてから、ユカタンの森林へ分け入り、鶴嘴とシャベルを揮つて、考古學の研究のために、過去の遺蹟を掘り出さうとしてゐる女性がある。彼女は三十五の年に、ゴルフ倶楽部の選手となり、その地方の文學界の元締となり、も早彼女の交際社會には征服すべき何ものもなくなつたので、今まで興味を持つてゐた考古學の方面で名を成さうと決心した。ところが、両親が彼女の計畫に斷然反對したので、その後の十年間といふもの、彼女は毎月の小使錢を貯金して、機會の來るのを待つてゐた。彼女の如きも、確かに人類の英雄の一人である。

世間から醜い小鴨といはれ、五十になつても獨身で、のらりくらりと暮した女性があつた。彼女の妹たちはみんな美しかつたので、何れも立派な良人と結婚したが、彼女だけは求愛もされず、求婚もされず、たゞ家にゐて編物をしたり、ラヂオを聞いたりして暮してゐなければならなかつた。ところがある日、彼女は早壁の花でゐたくないと思つた。そして、ラヂオの子供の時間に向くやうな、スケッチ風の物語を書きはじめた。それ以來、子供の讀物

の作者として、彼女の名は非常に有名になつた。今日では、世界の至るところに「女性の人生は四十から」といふ新しいモットーを實現しようとしてゐる、勇敢な女性が澤山ある。

文明が進むにつれて、女性の視野が次第に擴がり、女性の有用性が次第に大きくなつた。無用な寄生蟲的な女性は、たとへ二十であつても六十であつても、同じやうに悲しむべき存在である。けれども、自分の年齢を正直に受け容れ、自分の力を十分に利用する女性は、たとへどんなに年をとつても、いつまでも有用な女性であり、幸福な女性である。女性の不幸の大部分は、決して年齢から來るものではなくて、人生に對する間違つた態度から來るものである。あなた方は、人生に對して「イエス」と答へ、中年の女性を奴隸や臆病者にした因襲的な傳統から離れて、獨立することを主張しなければならぬ。この思想は夫婦の愛情を破壊するものではなく、反對に、こゝにこそ本當の夫婦愛の境地があるのだ。あなた方が本書を讀んだ日を、新しい愛と幸福の生活のスタートを切つた日として、あなた方の心のカレンダーの中に赤い二重丸をつけて、どうか永久に記念して下さい。



## 妻に逃げられた男の告白

最後に、私のところへ来た患者の、非常に興味のある告白を紹介しよう。この患者は四十過ぎの薬剤師だったが、ある日次のやうな身の上話を告白した。

——十二年ばかり前、私は東部地方の小都市に住んでゐたことがあります。家は薬屋だつたのです。當時私は、町の有力者としておさまつてゐました。

そんなことは兎に角として、私には當時美しい妻がありました。彼女は隣の町の立派な家柄の生れで、両親はその町で相當知れわたつた地位の人でした。私はある時、醫學視察といふやうな形でこの町へ行きましたが、その時この娘と知り合ふやうになつたのです。

私は彼女の美しさよりも、その溫和な、靜かな、從順な氣質が好きになつたのです。二人は至極親密で、争ひ一つしたことがないのです。何か問題が起つても、お互ひに讓歩してしまひます。従つて、世間によく見るやうな醜いいさかひなどは、一度だつてしたことはありません。

ません。そして時には、氣味悪く思はれる程平穩だつたのです。妻は外へ出ると、非常に明るい快活な女なのですが、家にゐる時は黙つて考へ込んでゐて、滅多に口を利きません。それが私には、妻がいつも何かを悲しんでゐるやうに見えて、仕方がなかつたのです。

そればかりではなく、彼女はほんとうに妙な……さあ、何といつたらいいでせう……全く妙な女なんです。こゝで先生に注意していただきたいのは、彼女は一度も妻として昂奮したことがないといふことです。勿論その頃は私も若かつたので、自分だけの満足のみに関心してゐて、女性の満足がどんな風のものだらうかといふやうなことは、まるで知らなかつたのです。が、何れにしても、彼女には情慾とか昂奮とかいふことが、まるきりないのです。ただお勤めのために、仕方なく接してゐるといふやうに見えるのです。私も昔のやうなげしさは段々なくなりましたが、それにしても、妻のやうに全然感じないなんて状態があるものでせうか。

丁度その頃、私の町へある劇團がやつて來ましたが、その時重大な事件が持ち上つたので



す。その時私は參劑の方の仕事で、暫く家を留守にしなければならなくなりました。そして、用事が済んで歸つて見ると、家には女中だけがゐて、妻はゐないのです。机の上に一通の置手紙がありました。開封して見ると、次のやうに書いてあるのです。

「拜啓、私はやつと、何うしたら私たちが幸福になれるかといふことを、はつきり知りました。私は愛人と一緒に去ります。私のことでお悩みになることなく、よき妻を新たにお貰ひ下さい。私には、この私といふものが、あなたにとつて全く無用なものであることが、すつと以前からよくわかつてゐたのです。あなたのお胸もまた萬事を御承知の筈です。では永久に。」

私は全く途方に暮れてしまいました。彼女を愛してゐただけに、苦しみは永かつたのです。だが、彼女はもう二度とは歸つて来ませんでした。

實際、あの芝居が悪かつたのです。その一座の俳優の一人が、妻を連れて行つてしまつたのです。私は芝居のかゝつてゐる公會堂へ行つて、彼を捕へて、こつびどく殴つてやらうと

思ひましたが、私が旅から歸つた時には、彼等の一行はもうこの町を切上げて、何處かへ立去つたあとでした。このことは、非常な醜聞となつて町に擴がり、彼女の両親は、彼女を勸賞してしまいました。しかし、そんなことが何になりませう。私はその後數年たつてから、彼女が立派な生活をしてゐることを耳にしました。噂によりますと、彼女は二人の娘の母親になつて、楽しく暮してゐるさうです。

あらゆる悲しみにも、結局終りがあるといひますが、私は獨りで、いつまでも苦しみました。私はそれほど彼女を愛してゐたのです。自分の商賣も面白くないし、色々な調劑や製藥に、心をまぎらさうと努めても駄目でした。そしてこんなことの間、二年といふ月日が、瞬く間に過ぎてしまいました。だが先生、時といふものは、矢張有難いものですね。私もいつの間にか、これを運命とあきらめるやうになつてゐたのです。

丁度その頃、私の町に一人の若い女の齒科醫が開業しました。この人はやつと學校を卒業したばかりで、この町へ來たのです。間もなく、私はこの人と知り合ふやうになりました。



彼女は見るからに獨立的で、精力的な女性でした。そして美しさといふ點でも、先づ難の打ちどころがありません。ですが、私にはこの人が如何にも眞面目で、冷たくて、取りつく島もないやうに見えました。しかしそれからといふもの、私たちはしばしば逢ひました。町には公園がありました。日中は仕事にいそしんで、夜分になるとこの公園をぶらつくのが、町の人々の日課でした。その公園といふのは、實にすがすがしい場所で、私たちは毎日のやうに出かけて行きました。

そんなことは兎に角として、それから半年ほど後には、私はこの女齒科醫と結婚して居りました。彼女は私の家に醫院を移し、二人で幸福に働いてゐました。彼女は齒科醫としても、また一家の主婦としても、立派な伎倆を持つてゐました。それに彼女は妙に人を惹きつける才能があつて、いろ／＼の人と交際を交へました。つまり、昨日私どもで齒の治療をしてもらった人が、今日はもう私どものお客さんとして、招待されるといつた具合にです。また、性質も前の妻とは全然反對で、なか／＼おしゃべりで性急です。そしてよく氣がついて、部

屋の中などもいつもきちんとして片づけ、全く申し分なしといふところでした。

ところが彼女は、何といつていゝのかわかりませんが、兎に角、不思議な女なのです。冷たいとでもいへばいへませうか。彼女は私と結婚するまで、全くの處女だつたのです。が、彼女は私と一緒になるや否や、私が彼女の期待してゐたものではないことを知つたらしいのです。そして少くとも、そのことに不満を抱くやうになりました。私は最初は、このことに就いて別段氣にかけなかつたのです。

そのうちに、二年の年月が過ぎました。ある日の夕方八時頃に、私が店をしまつて食堂の方へ行かうとしますと、廊下の床の上に、白いものが落ちてゐるのです。近よつて踏んで見ると、女持ちのハンカチで、取りあげると中から紙幣がこぼれました。何といふ不注意な奴だと思つてよく見ると、それは實は紙幣ではありませんでした。で、すぐに捨てゝしまはうかと思ひましたが、不圖何か重要なものではないかと思ひ直して拾ひ上げ、食堂へ持つて行つて、電燈の光で讀んでみました。するとどうでせう！



「可愛いマリーさん、亭主が店へ行つたら、出ておいでなさい。七時に待つてるよ。僕は夢中だ。僕の心は燃えてゐる！ 燃えてゐる！ トムより。」と書いてあるのです。

成る程、妻は家には居りません。先生、この時の私の氣持はどんなだつたと思はれます？ それは、私の到底堪え得るところではありません。たちまちすべては終つてしまいました。破滅してしまいました。一體女性といふものは、みんな良心がないのでせうか。密通は彼女たちにとつて、普通のことなのでせうか。彼女たちには、この偽瞞や醜行を公然と行ふ権利があるのでせうか。

それから二時間ほどすると、彼女は實に朗らかな顔をして、映畫を見て來たといつて歸つて來たのです。私がいきなり、拾つた手紙を突きつけると、「それがどうしたとおつしやるの？」といふのです。私はたゞ黙つて、頭を振りました。もう怒鳴る勇氣も、地団駄踏む勇氣もなくなつてゐたのです。何故でせう？ 私はたゞ、何故にかうしたことが起つたかを知りたいだけでした。彼女は學問も十分に修め、教養もよく備つた、立派な婦人ではありませ

んか。澤山の本も讀んでゐる。着物にも不足はない。何一つとして不十分なものは無い筈ではありませんか。

妻はこの場に臨んでも、派一つこぼさないのみならず、別段驚いた様子もなく、さればといつて、許しを乞はうともしないのです。彼女は私と差し向ひで椅子に腰を下すと、至極あたりまへのやうな調子でいふのです。

「あなた、私は自分で自分がどんなにきたならしい女だかつてことを知つてゐますわ。私たちは早晚別れなければならなかつたのです。二人が結婚する時は、私もこれが理想の生活だと信じてゐました。なのに、事實は反對でした。私はたゞ、妙な物足りなさに焦立つばかりでした。私は書物からも、またお友達からも、戀愛とはどんなものであるかを教はつてゐました。そしてそれが、どんなに幸福なことかつても知つてゐました。なのに、私は當てが外れたのです。随分苦しみもしました。そしてある時、遂にあなたを裏切つて、別の人から、その失つた樂しみを味はつたのです。それはもう餘程前のことでした。でも、私の心



はいつもその人に向つて走り勝ちなのです。そして、私はこの何ものかを捕へようと奔馬の如くあせる内心の力を、人知れず制御して來たのです。ですが、もう隠してゐる時ではありません。みんなお話ししてしまひます。そしてお互ひに別れることにしませう。私は獨立が出來ます。自分の生活は自分で立て、行きます。この手紙を書いた男は、實は初めての男ではないのです。」

と、妻は至極簡単に、そして明瞭に言つてのけました。私は妻に向つて、そんな無茶なことは止めてくれ、そして仲直りをしてくれと頼んだのですが、彼女は頭を横に振つて、どうしても駄目だといふのです。たとへ約束しても、その約束を守ることが出來なければ、結局同じことだといふのです。さういはれてしまつては、私にそれ以上どうすることが出來ませう。私たちは別れるより外に仕方がなかつたのです。町の人々は、さんざ二人の悪口をいひました。こんなことになつたのも、要するに私がぼんくらで、妻が機織買ひで、性が合はな

いからだと噂しました。

そして私は、また一人ぼつちになつたのです。もう懲り／＼したと思ひました。だがお蔭で、私は女といふものゝ本質を、半分くらゐは知つたやうな氣がしました。つまり彼女たちを墮落させるものは、美貌と學問と富とです。両親が娘を教育するに當つて、勝手氣儘にさせて置くと、娘は自墮落になり、退屈になつて、つまらぬことを考へる。つまりロマンチックになるのです。そして何をして一つのことには辛抱がなく、その癖、慾望だけは無限に發達する。反對に、パンを嚙つてゐるやうな貧乏な頭脳には、ロマンチズムは宿らない、といつた結論が得られたのです。

が、それはさて置き、私は一年たつとまた結婚したのです。今度の妻は、前とは全然違つて、決して美しくはなく、むしろ醜いといつた方でした。そして、教育もまるでありません。両親に死なれて、天涯孤獨といふ孤兒を拾ひあげたのです。非常に若い娘でした。彼女の出來る唯一の藝はミシンだつたのです。ミシンを使ふこと、それが母親から譲られたたつた一つの遺産でした。



私は自分にいひかされたものです。「お前はこの世で一番よいことをしてゐるのだぞ。あの娘は立派な娘だ。容貌の點で前の二人の妻に劣るからといつて、決してさげすんだりしてはいけない、美貌なるが故にこそ、前の二人には、情熱といふものがなかつたのだ。學問がなからといつて、さげすんではいけない、學問のために生ずるあの狂氣ぢみた思想は、あの娘の夢にも知らないところなのだ。あの娘は、一片のパンも如何に貴重なものであるかを知つてゐる。あの娘は、お前のよき妻となり、自分のあらん限りの愛をお前に捧げ、お前の生活に祝福をもたらすであらう。」と。

そして彼女は、私の妻になりました。

私は幸福でした。一步毎にこの世の祝福を感じて行きました。思ふことはだん／＼實現されて行つたのです。實際、一家の主婦として、彼女は最上級のものでした。彼女は綺麗好きでした。永い間他人の家に厄介になつてゐたことから、自分の家を樂土のやうにすることに、心がけてゐたのです。

だが、彼女もまた情火のない女なのです。これまでに彼女はかうしたこと知識を得る機会がなかつたのでせうか、情慾とか情火とかいふものを經驗したことがなかつたのでせうか、彼女は生れてからまだ一度も、戀といふことを考へたことがないやうに見えるのです。たゞ毎日、ミシンにばかり喰ひついてゐるやうに見えるのです。が、本當のことをいふと、私は彼女の冷淡さが不満だつたのです。そしていつの間にか、私はそのために妙な不安を感じずるやうにさへなつたのです。

ところがある日のこと、突然牛殺しの俸が私のところへやつて来て、今私と先生が、かうして差し向つて腰かけてゐるやうに、私の前の椅子に坐り込んだのです。そして、

「あなたはナンシーとお父さんのところへ行きなさい。」といふのです。

「ナンシーつて何處のナンシーかね？ 私の妻のナンシーとですか？」

「あの人はもう、お前さんのナンシーではないんだよ。」と、この若造は大威張りでいふのです。



「あの人は私を愛してゐる。私もあの人が好きだ。二人は一緒に住むのです。問題はたゞ、あなたが離婚をすませることです。そして私はナンシーと結婚するのです。もう二人の相談はまとまつてゐます。ナンシーが自分でいふ筈だが、耻しいといふので、私が出て来たのです。」

私は眼がぐら／＼するのを覺えました。跳び上つて床を鳴らし、この破廉耻漢をつかみ出してやらうと思ひました。だが、彼は平然と私の前に坐つて、鐵面皮な眼つきで、ちろ／＼と私を眺めてゐるのです。しかし私の勇氣も、その時扉を開けて這入つて来た妻の顔を見ると、たちまちくちけてしまひました。私は彼女の顔つきから、この大馬鹿野郎の言つたことが、決して出鱈目ではないと直感したのです。彼のいつたことは、みんな本當だつたのです。それに、私には何が出来ませう。この破廉耻漢を殴りつけ、おつぽり出して見たところで、何になりませう。

また／＼、私は獨りぼつちになりました。そして今度こそはもう懲りた、二度と結婚など

しないぞ、運命は私に一人で居れと命ずるのだ、家庭の幸福は私には授からないのだ、と考へました。間もなく父が相場に失敗して、一朝にして乞食同然の身になりました。私も僅かばかり残つてゐたものをさつぱり棄て、しまつて、こちらへやつて来ました。そしてある製藥會社の藥劑の方の仕事にありつき、靜かに、つゝましやかに暮しはじめました。

ところで先生、私はまた三ヶ月ほど前に結婚したのです。もう懲り／＼だ、二度とすまいとあれ程決心したのに、またしたので。私はもう四十一にもなります。それに、三度も結婚して、その度にあんな大失敗をしながらも、やつぱりまだ悟れないのです。子供が欲しいのですね。私は賣藥部の女出納係と知り合ひになりました。彼女は自分の腕一本で、母親と妹とを養つてゐる身分でした。そこで私は考へました。自分は天涯孤獨の浮浪人同様で、何の係累もなくなつたのだから、こんな人と結婚したら丁度いゝだらう、と。そこで、彼女といろ／＼相談して見ました。彼女もまた、今の生活に何の樂しみも感じてゐないのでした。二人の間には、十六歳の年の差こそあれ、性質はびつたり合ふのでした。さう考へると、



私も日々の仕事に、何等かの希望と目的が持てるやうな気がして嬉しいのでした。しかしこれは、戀愛といふ氣持からは大分縁の遠いものでした。

それから、三ヶ月ばかりたちました。だが先生、彼女はやつぱり例の不思議な女なのです。兎に角普通ではないのです。最初それに感付いた時には、びつくりしました。だが今では彼女が別れるのを恐れてそれを我慢してゐるのが、私にはよくわかるのです。昔なら、私はそのために苦しめられたでせう。しかし今となつては、私には厭な程澤山、かうした経験があります。私はこんな冷淡な女が恐ろしいのです。そこで、私は彼女にありのままをすつかり話しました。彼女は始めは耻しさにしてゐましたが、結局、普通の人の感ずるものを感じずに生きてゐるのは、何としても張合ひがないと打ち明けました。何といふことでせう。これが私の最後の判決です。この世における最後の判決です。先生、これはどういふわけです、どうにもならないことなのでせうか？——

## 完全なる夫婦愛

この藥劑師は完全な性的能力を持つてゐなかつたので、妻に對して與へなければならぬものを與へることが出来なかつたのだ。しかも、自分の缺陷についてはつきりした自覺がなく、四度まで結婚しながら、遂にどの結婚にも失敗してしまつた。彼と結婚した女性は、何れも口を揃へて、彼はたゞ自分をいら／＼させるばかりで、普通の妻の味はふべきものを味はせてくれないといつてゐるではないか。

およそ、人生にこれほど不幸なことはない。それは、彼自身が不幸であるばかりでなく、妻をも非常な不幸と絶望に陥れてしまふ。性生活は夫婦愛の最も重大な要素の一つだから、若し夫婦の何れかにその缺陷があつて、完全な性生活を営むことが出来ないなら、その結婚生活は決して幸福な、圓滿なものではない。いかに智的に優れてゐても、いかに容貌風采が立派でも、かういふ性的缺陷を持つたものは、そのまゝでは、結婚生活に入る資格がない。



それにも拘らず、この藥劑師は四度まで結婚して、四人の女性に同じやうに苦杯をなめさせてゐる。これは確かに重大な不道德であり、罪惡である。

彼が性的缺陷を持つてゐたといふことそのことは、決して不道德でも罪惡でもないが、たゞ、それをはつきり自覺しなかつたこと、従つて適當な處置を講じなかつたこと、そしてその事實を隠して四人の女性と結婚したことは、確かに許し難い不道德であり、罪惡である。

では、かうした缺陷を持つたものは、永久に結婚生活に入る資格がないのであらうか。否、決してさうではない。現代の醫學がこの問題を立派に解決し、前途に新しい光明の道を拓いてくれる。かういふ人々は、一日も早く優れた醫者の門を叩くがよい。この藥劑師がもつと早く自分の缺陷を自覺して、醫者に相談したなら、かうした不幸は味はゝないで済んだに違ひない。

どんな男性でも、容貌風采が立派だとか、知識が豊かだとか、仕事の手腕があるとかといふだけで、理想の良人といふことは出来ない。勿論これらも重大な要素には違ひないが、そ

れがすべてではないのだ。それと同様に、どんな女性でも、顔が美しいとか、教養があるとか、趣味が廣いとかといふだけで、理想の妻といふことは出来ない。

デュリアス・シーザーが、クレオパトラをあれほどまでに愛したのは、必ずしも、クレオパトラの容貌の美しさのためばかりではなかつた。ナポレオンが妻のジョセフィンにあんなに愛着を感じたのも、彼女の教養や容貌のためのみではなかつた。近くはウインザー公が、大英帝國の帝位をかけて、シンブソン夫人に傾倒された。およそ望んで得られないものゝない大英帝國の皇帝が、何故に彼女に傾倒されたか、その真相はうかゞひ知る由もないが、單なる容貌とか、社交術の巧みさとか、ダンスのうまさとか、話術の優秀さとかばかりでないことは想像出来る。

夫婦の愛情の根柢となるこの要素は、中年期に至ると共にますます圓熟して来る。二十代より三十代、三十代より四十代と、年と共にいよく完全なものになつて行く。女性の人生は四十から」といふのは、この事實の上に立脚した言葉である。精神的にも肉體的にも、い



つまでも若さを保つやうに努力する女性にあつては、四十過ぎこそ夫婦愛の黄金時代である。私は、あなた方がいつまでも若さを保ち、この黄金時代を十分に味はつて、幸福な完全な生涯を送られんことを、衷心から希望してやまない。

### 『夫婦愛情讀本』終

### あとがき

本書『夫婦愛情讀本』(A Woman's Best Years)の著者ヘラン・ウォルフ博士(W. Beran Wolfe)は、イギリスの精神病學者で、この方面では世界の第一人者である。本書がたび書店に現れるや、イギリスやアメリカの英語國はいふまでもなく、全世界の讀書界に一大旋風がまき起され、夫婦間の諸問題に一大革命がもたらされた。

彼が純粹な科學者として、精神醫學の方面から、夫婦間に起るあらゆる問題、特に性生活の問題、良人の浮氣の問題、年頃の子供の性教育の問題、若返りの問題などについて、今まで秘密の門の中に閉ざされてゐた事柄を、大膽卒直な筆で痛快に白日の下にさらしだし、鋭い解剖のメスを加へ、あらゆる迷信的な觀念を一蹴し去つた時には、従來の宗教家や教育者や、その他の迷信的な道學者どもは、讀書階級から完全に閉め出しをくひ、啞然として口を閉ざしてしまつた。これを以てしても、本書が如何に革命的な、エポック・メイキングな著



述であるかどわかる。本書がロンドンで出版されると同時に、ヨーロッパの各国では競つて本書を翻譯し、何れも讀者の壓倒的な支持を受けたが、ひとり我が國に限つて、讀書界の異常な期待にも拘らず、いまだにその翻譯が出ないので、私は非才をも顧みず、こゝに本書を譯出して、敢えて江湖にさゝげる次第である。

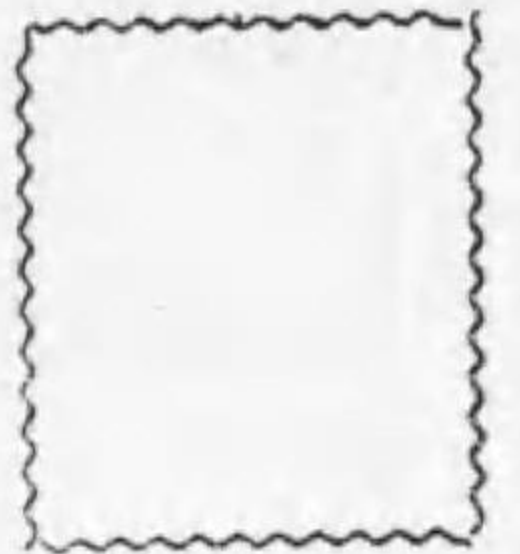
本書は新聞紙上の身の上相談の壓巻ともいふべきもので、就中夫婦間の肉體的幸福の問題について、多くの實例をあげて、現代女性の進むべき新道を示してゐる。未婚の女性は本書を読んで將來に備へ、既婚の女性は現在の自分の生活が眞に幸福であるかどうかを反省して、若し少しでも不幸があれば、それに對して適切な處置を講じ、幸福な、完全な夫婦愛の世界を實現してほし。

昭和十二年初夏

世田谷の假寓にて

譯者

有共者行發者著は標作著の書本

<p>昭和十二年六月十四日 印 刷 昭和十二年六月二十日 發 行</p>	<p>不 許 複 製</p>  <p>譯 者 永 井 直 二 發 行 者 今 村 源 三 郎 印 刷 所 英 光 印 刷 株 式 會 社 東 京 市 京 橋 區 寶 町 二 丁 目 二 番 地 東 京 市 王 子 區 堀 船 町 一 丁 目 八 三 五 番 地 東 京 市 王 子 區 堀 船 町 一 丁 目 八 三 五 番 地</p>	<p>發 行 所 東 京 市 京 橋 區 寶 町 二 丁 目 二 番 地</p> <p>借 成 社</p> <p>振 替 口 座 東 京 一 三 五 二 番 電 話 京 橋 四 六 九 一 番</p>
------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

定價壹圓五十錢

(夫婦愛情讀本 奧付)

本 圖 田 寺

(送料十錢)



# 驚異の科學

少年知識文庫

興味と好奇の一大科學叢書

東京女子高等師範  
附屬小學校主事

堀 七藏

私は永年理科教育の方面にたづさはつてゐるのであるが生徒児童に讀ましたいこの方面の良書に乏しいことを常に遺憾に思つてゐる。「科學日

父兄並に學校教職員各位へ！

驚異と疑惑に充ちた寫眞數百枚を配し、難かしい科學一般を恰も一篇の小説のやうに面白く書いたといふ點で、本書は我國出版界空前の好評を博してゐます。  
お子様の書棚に、更に小・中・女學校の圖書室に、理科教育の好參考書として是非一冊は備へて頂きたい斯界待望の良書であります。

讀賣新聞社科學部主任

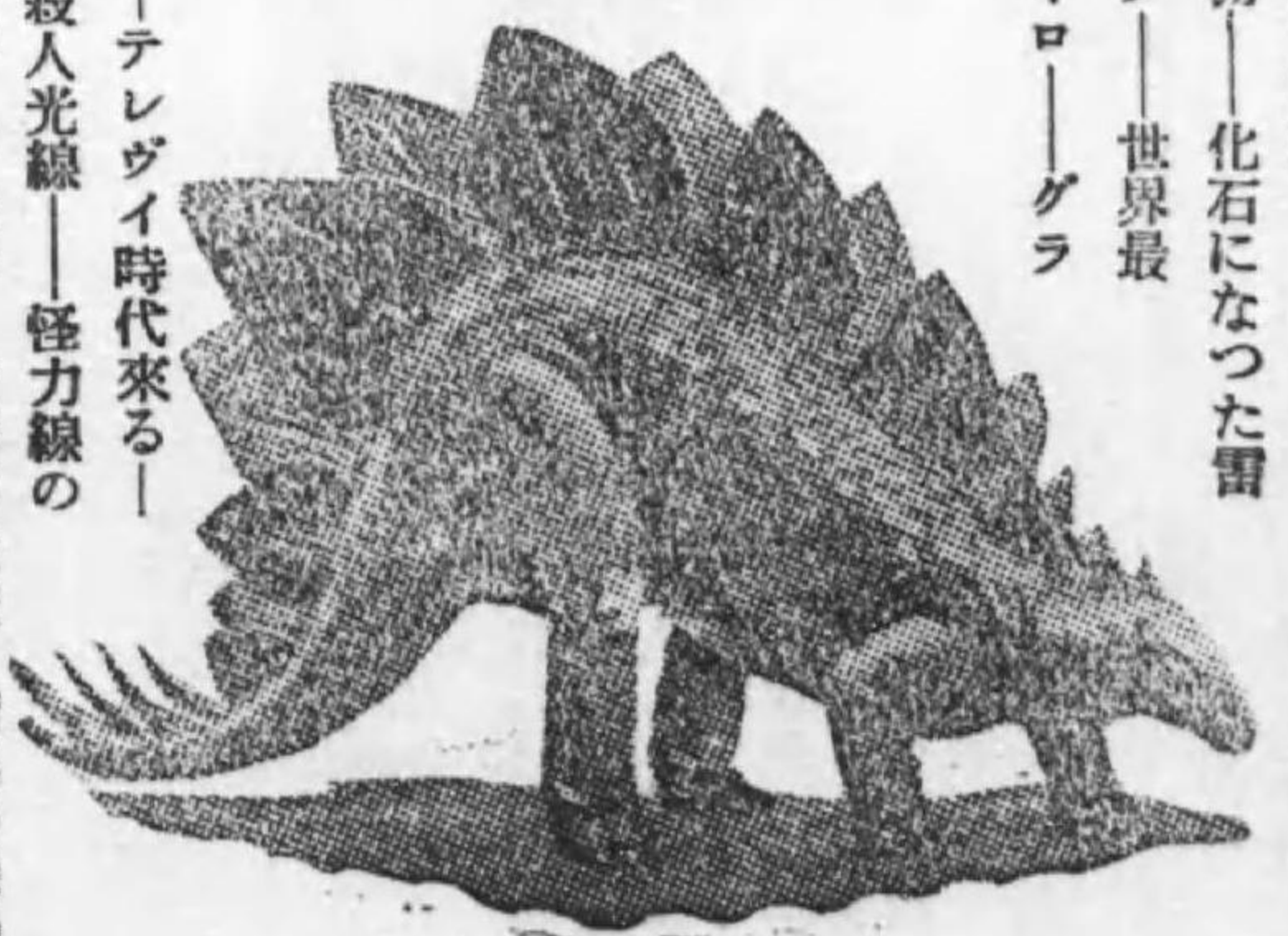
理學士 柴山雄三郎著

最新刊  
菊判二六〇頁  
アト寫眞其他  
數百枚の珍寫眞入  
美麗函入

定價 壹圓五十錢  
送料 十四錢

## 本書の主要目次

- 宇宙の神秘——灼熱の太陽を暴く——成層圏を越えて——宇宙塵の秘密——星の正體——七夕の不思議——自然界の驚異——世界一の大峽谷——世界の屋根——水河の美觀——面白い砂の産物——大地の寒み——海賊キッドの寶島——熊と闘ふ山男——金鐘探險——金の採集法——銀山奇談——ブラチナ——わが鐵業界の誇り——怪獸横行時代——怪植物と怪動物——化石になつた雷——躍進する航空界——發動機とプロペラ——世界最大の飛行機——豆飛行機——オートジャイロ——グライダー——パラシュート隊——空の魔王
- ロケット——將來の飛行機——飛行船の構造——海洋を探る——潜水艦——展望鏡の秘密——水雷とは？——潜水艦が沈没したら？——生物界の秘密——動物界の驚異——ライオンと虎の闘争——蟲を喰ふ植物——人間を喰ふ虎鯨——映畫界の寵兒——トーカーと發聲裝置——電波は飛ぶ——無線時代——國際電話——電送寫眞——ラヂオ——中繼放送の場合——テレビイ時代来る——テレビイの原理——未來の新兵器——殺人光線——怪力線の正體——電氣砲——日本海を飛び越す——戰術上に革命——潰滅の戰法——暗黒の戰場



本」の辭を聞くことは久しいけれども、科學界の新知識を平易に興味深く述べられた子供の本といふのは實際一冊もないといつて差支えない状態なのである。  
今、柴山氏の「驚異の科學」を通讀するに及んで、私の永年の待望が茲に完成されたやうな氣がして實に嬉しく感じました。讀賣新聞の科學欄で毎日取扱つて居られる取材が已に非常な評判であるが、本書は科學一般を小説のやうに面白く、平易に讀ませる點で單に子供ばかりでなく大人にとつても洵に實益に富んだ良書だと思ふ。敢てこれを世の教育家各位並に父兄一般におすゝめする次第である。



W・A・ホワイト博士著  
久野豊彦譯

成功への科學的指導書

# 人は何故に失敗するか

最新刊

四六上製三三五頁  
定價壹圓二十錢  
送料十錢

本書は精神醫學の立場から人間さまぐの失敗の原因を分析し、輝かしき成功への新道を遍照せる莊嚴な生活聖書である。

修養書ではない、お談議の書でもない。これは吾々の精神に與へられた健康診斷である。讀む人をして屏々と胸に逼る何物かを感じしめる眞理の書であり、慈悲をもつて説かれた慧智の讀本である。愛兒を育てる爲に、弟姉を出世させる爲に、良人を榮達させるために朝夕心を碎く方々の是非一讀さるべき良書である。

絶讚の嵐！ 忽ち六版！

失敗は豫防出来るか？ 科學から見た成功と失敗 自己の眞の才能は？ 失敗者の兩親の調査をせよ。社會に出て初めての仕事をしたものが多し。性愛はビジネス界に纏着した。愛情の待避線家庭に於ける男性訓練法 怖るべき性的鮮見 愛情を注意せよ。夫を失敗させる妻 武器としての「病氣」の徴候 良人を成功させる妻とは？ 變人なるが故の失敗者 引籠り勝ちな性格者 蝸牛のやうな性格 交際嫌ひの氣むづかし屋 不機嫌 疑ひ深い人々。空想家と實業家は失敗するか 父の權力。何故に職事を怠るのか 婦人は四十五歳を過ぎてから本當の仕事をするか 家庭で作られた失敗親も子も自己を認識せよ。性には合はぬ仕事、精神醫の力を借りて、どうしても適しない仕事はするな。

## 主 要 目 次

和田日出吉著

爆彈的賣行きを示した問題の書

# 二・二六以後

最新刊

四六判三四三頁  
定價壹圓二十錢  
送料十錢

愕然として全日本が練み上つた日——それは萬人の胸底を激動に慄はせ悲しみに充たさした怖ろしい一瞬であつた。生れ出づるものゝ惱みとしては餘りに痛ましい陣痛ではなかつたか？ 同朋よ！ 國民よ！ 銘記し給へこの悲しみの日を！ 爾來一年有半の時劫は流れた、而も尙變らざる惱みはあゝ、「祖國日本よ、何處へゆく？」 著者は人も知る事件當日、首相官邸一番乗の名チャイナリスト、筆力正に殺陣！ 事件を醗酵せしものは何であつたか？ その眞相は何か？ 一切の偽瞞と秘密が遂に裸形のまゝ本書に報告されたのだ。

二・二六以後  
その後の軍部 軍閥 軍部の政治干渉  
オロギー 軍部と調査局 議會の政治問題  
政黨否認 陸軍の應急手當 議會  
政治否認 陸軍の應急手當 議會  
性 國民政治の絶望。その他。  
財閥の旋迴運動 三井と國民的反感  
株式公開 三菱の風當り 池田  
成金の退陣と財界の波紋 田  
財閥の強行 財界の母體  
換期の人物論 財界の母體  
エンヂニア 財界の母體  
南洋の鐵山王 財界の母體  
者。森羅の立場 企業主義  
ロギー 潮の香ひがする 企業主義  
助は何處へゆく 冷然なるタン  
ク！ 亂世の人物その他。

## 主 要 目 次

これぞ轉形する日本の歴史的大記録であり、明日の祖國を想ふものへの貴重なる一大報告書であらねばならぬ!! 刻下萬人必讀の書!



山中峯太郎先生の大快著

少年冒險物語

# 絶島の日章旗

最新刊

四六上製三二二頁  
定價九十錢  
送料十錢

どんな少年が偉くなれるか？  
愛兒の教育に腐心される、お母様方に  
申上げます。

立派な男とは、どんな苦しいめに會つても、目ざしたこ  
とはきつとやりとげる、といふ強い正しい心を持つた  
人間です。あなたの可愛いお子様を、心も身體も、正し  
く大きく健やかに育てられねばなりません。  
少年時代の讀物は、その人間の一生を決定すると  
言はれてゐますが、本書こそ！あなたのお子様を強く、  
正しく、勇ましい男に育て上げます。  
少年のあこがれを深い正義感にまで導く、素晴ら  
しい大冒險小説！息もつかせぬ面白さのうちに、  
何と立派な精神が躍動してゐることか！！全国の少  
年達の座右に、是非一本をお求め下さい！

### 部一の次目

絶島の日章旗  
名も知れない島を探る武光中尉—  
森のバラバライラ大王と空の三三三  
女王—怪飛行機にかくれて敵を探  
る—火の上に落ちる機上の激戦  
—三千二百メートルの高さに三人  
の命は—前からオランウータン、  
後から黒豹—森の中に人獣の猛闘  
—三國が占領をあらそふ島—正義  
と武勇と平和の國  
名大探偵物語  
ノミトリ粉に眼らされて曲馬團の  
大異變—名探偵の卵犬—黒眼鏡と  
間謀團—追跡する女の探偵—山上  
にミドリさん危し—第一回の大動  
功—地下に大要塞あり—僕は戦死  
するの—青木秘密探偵長の話

南洋一郎先生の大傑作！

少年科學冒險小説

# 科學冒險 魔海の寶

最新刊

四六上製三二〇頁  
定價壹圓  
送料十錢

昔から海の冒險を喜んだ國は國運がめきくと盛  
んになつた。海を征服する國民は全世界に雄飛す  
ることが出来る。

海國日本の健男兒に海への關心を育てることは、國家  
百年の計に資することだ。雄々しい不屈の精神を鼓舞  
し、愉快に、勇ましく、力一はい働く心を植えつけるこ  
とは、少年教育の一大使命であり、目下の急務である。  
こゝに待望の本書を送る。盛んなる海國思想を  
養ひ、果斷にして不拔の精神を持つた快活なる  
少年を育成するもの、それが本書だ！

冒險小説界の雄、南先生畢生の快著！  
全日本の海國少年を熱狂感激させた  
千古不朽の大雄篇！

### 部一の次目

魔海の寶—海底の怪音—沈没船  
の秘密—船を襲る猛魚—怪しい潜  
水夫—大魔海いづこ—忍びよる怪  
しい人影—寶島の地圖—スペイン  
海賊の記録—孤島に漂流—大洞窟  
の怪光—隠れたる海の英雄—空飛  
ぶ潜水艦—覆ふ魚鱗—黒い海底の  
通り魔—孤島の信號旗—輝く秘寶  
眞珠島怪事件—椰子林の死體  
チビ權の憤怒—青天白日  
部 日本少年の譽—日本人の名譽  
にかけて—深海の一騎打—強敵土  
人ジャック  
南極突進隊—大雪原の彼方へ—  
南極の奇劇—白雲の墳墓



# 幼年模範文庫

各冊共大判百餘頁  
彩色畫數枚  
定價畫圖送料十錢

美しい繪

面白いお話で一杯!!

## (1) ウサギのウタ

村岡花子著  
河目悌二畫

毎日のラヂオでおなじみの村岡花子先生が、カタカナでお書き下さった、明るくて上品なドウワの本です。

河目先生の挿繪と相俟つて、名實共に日本一の理想的なお子様本として、各方面から絶讃を頂いてをります。

## (2) チエの三休サン

宮尾しげを作

一休和尚より三倍もの惺恰もの三休さん！ 奇想天外のトンチでもつて、お隣がお湯をわかすほどに人々を笑はします。どの頁も上段が素晴らしい繪、下段がその物語りになつてゐて、實に心にくひまでのスマーとさです。

### ！へ方様母おの國全

幼稚園や小學一、二年のお子様方にお與へなさいますと本は是非この明るくて面白い借成社の「幼年模範文庫」からお選び下さい。巷間山と積まれたこの種の本には兎角、お子様への影響を考へない俗悪なものが多く心ある世の親御さま方のお惱みの種でございました。

茲に感ずるところあり、小社はさきに一流の先生方にお願ひして、お子様方の情智の教育に資すると共に、最近特に問題となつてゐる「眼の衛生」といふことにも全く理想的なこの文庫を「これ以上のものなし」との信念を以て刊行いたしました。幸ひ小社の微衷を諒として大方の限りなき聲援を得ば光榮に存じます。



終

